



第147号

# Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第124回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第125回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第132回出題

結果発表

- ・ 第123回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第130回解答
- ・ 第7回神無太郎の氾濫 解答編

読み物

- ・ レトロプロブレム入門(9) by 高坂研

(改訂:2020/9/27)



2020/9

## はじめに

---



### 梨泰院クラス

新型コロナウイルスが、やや下降線を辿っている感じはしますが、都市部ではまだまだ警戒しなければいけない状況だとも言えます。日々の生活もまだまだ自粛という文字が頭に浮かびます。結局、休みの時には自宅で過ごす事になります。勿論、詰将棋を解いたり創ったりという事もするわけですが家庭サービスも必要なんです。日頃から家事をそんなに手伝ってないものですので…。でその家庭サービスとして最近しているのが、リビングで韓国のドラマを見るというもの。おばちゃんまが韓流ドラマに嵌ってる…なんて聞くと「え～」なんて思っていました。が、付き合っただけで何作か見たら意外と面白い。で最近話題の「梨泰院クラス」を見たらこれは面白かったですね(ちょっと遅いか)。全16話(1話1時間ですがCMが無いので見終わると結構疲れます) ちょっとずつ視聴して2週間くらいかけて全部見ました。ストーリーはネタバレになるので話せませんが、韓国版半沢直樹なんて言われています。主人公も実直で信念の人。また主人公を巡る2人の女性の恋愛の行く手も結構面白く完全に嵌ってしまいました。チョ・イソという役名の女優さんが実に上手い。美人系ではないと思うのですが、ストーリーが進むにつれて段々と美しく見えてくる不思議な感じでした。皆さんもぜひ秋の夜長をこのドラマで楽しんでみてはいかがでしょうか。

今月21日に神無太郎さんが手がけた「伝承～ A Young Person's Guide to Fairy Tsume Shogi」が一般公開されます。是非ご覧頂ければと思います。

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第147号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : [takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

協力いただいている方々のHPアドレス

\*ご協力感謝します

### 妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

### 占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

## 第124回WFP作品展(再掲)及び 第125回WFP作品展 担当：神無七郎

### 📖 入門書考

先日、たくぼん氏の「アンチキルケ入門」(<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/AntiCircle.html>)を久々に読み返しました。「アンチキルケばか詰作品展」への準備のためです。これは元々ブログで連載されていた記事をまとめたものですが、改めて入門書としてよくできていると思いました。特に感心したのは次の3つです。

1. ルールが説明されている
2. 王手の掛け方が説明されている
3. 王手の受け方が説明されている

「何を当たり前のことを」と思われるかもしれませんが、これは案外難しいことです。

フェアリーで新ルールが提案されるとき、ルール説明が充分ではなく、そこに書かれていないルールを使わないと解けない問題が出題されることが、往々にしてあります。出題者が当たり前と思っていることでも、解答者も同じとは限りません。「これはこう解釈するのが当然」と考えるのは禁物です。

冒頭に紹介した「アンチキルケ入門」では、最初にルールの概要の説明があり、次に細則の説明があり、細則の各々に例図を使った説明があります。例図を用意するのは面倒な作業ですが、図を使えば文章だけの説明より具体的で、遥かに理解しやすくなります。

「王手の掛け方」や「王手の受け方」についても同様です。そのルールにおける基本手筋がここで出現します。また、フェアリーでは「王手」の概念自体が変わることがあります。それに伴い「応手」の概念も変わります。

特別なケースでは、ルールそれ自体に変化がなくとも、時代の趨勢によって追加説明が必要になることもあります。例えば「PWC」では当初「王手」について特別な説明をする必要はありませんでした。玉に相手側の駒の利きがあれば、それが「王手」なのは当たり前だったからです。ところが「Isardam(タイプA)」や「Koko」のように、玉を取った後の局面で王手かどうか判定するルールが増えたため、事情が変わってしまいました。PWCは「駒取り」が「位置交

換」になってしまうため、「玉取りは位置交換の例外」と明記しないと、「このルールじゃ王手すら掛けられない」と解釈されるおそれが生じたのです。

一般には入門書を書く時点で、このような特殊なケースまで考慮する必要はありませんが、項目さえ作っておけば、必要が生じたときにそれをアップデートすることは容易です。著者にとっては当然で、説明の必要がないように思える事柄でも、先入観を排し、自分の頭を白紙に戻して説明することが入門書では大切です。

たくぼん氏の「アンチキルケ入門」はこのような意味で、これから入門書を作ろうという人にとって、良いお手本になると思います。

本当なら「WFP 作品展登場ルールのまとめ」(<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule119.pdf>)でも、単なるルール説明だけでなく、個別のルールについて各細則の意味を説明し、基本手筋を紹介する「ルール詳解」を付けたいのですが、個人作業ではとてもそこまで手が回りません。良い入門書があれば、それを参照する方式を採りたいと思っています。

なお、入門書にはルール説明だけではなく「興味を惹きつける」という役割も期待されます。素晴らしい作品が創作可能な、真摯に取り組む価値がある世界が広がっていることを感じさせねばなりません。とはいえ、何事でも基礎は重要です。ルールをしっかりと理解できるようにした上で、高度な応用が可能であることを教えてくれる、そんな入門書の登場が望まれます。

では今月の出題です。今回は第124回の再掲分と第125回の新規出題です。

第125回は前回からの繰越分が2作、新規投稿が14作で、合計16作となりました。出題は12題のため、4作が次回以降に繰越しとなりました。どうかご了承願います。

### 〔第124回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第124回の出題は全12題。今回登場する作者は神無太郎氏、高坂研氏、占魚亭氏、真T氏、馬屋原剛氏、変寝夢氏、青木裕一氏、上田吉一氏の8名です。なお、久保紀貴氏と高坂研氏の各1作は次回へ繰越しとさせていただきます。本来であれば登場回数のない久保紀貴氏の作品を優先して出題するところですが、安南と透明駒という新しいルールの組み合わせなので、

最も易しいと思える作を今回は選んでいます。

**124-1** 及び **124-2** は神無太郎氏の点鏡作品。前回の **123-1** とセットの投稿でした。自玉の包囲網の作り方、持駒の処理の仕方、どちらも点鏡らしい手順です。

**124-3** は高坂研氏からセットで投稿をいただいていたキルケ&透明駒シリーズの最後の作品です。本局は高坂氏らしくレトロの概念が要求されています。初形が逆算可能であることを前提として解いてください。

**124-4** も **123-3** とセットで投稿をいただいていた作品。占魚亭氏お得意の *Imitator* に *Knight* (騎) が組み合わせられています。*Imitator* の格言を思い出して解きましょう。

**124-5** 及び **124-6** は真T氏の最悪詰。少し手順を進めると狙いが見えてくると思います。手数も狙いを見破るヒントになるでしょう。

**124-7** は馬屋原剛氏の透明駒作品。受方玉がありませんが、それは透明駒になって盤上のどこかにいます。また、本局は連続王手の千日手は禁手という規則の下で解いてください。千日手の成立条件は「同一局面4回」ですが、ここで注意すべきは「透明駒を使った作品では、見えている駒だけで局面の同一性を判断しない」ということです。透明駒の存在位置の違いにより、同一局面が4回出現することを回避できる可能性があれば、王手を続けられるものとして解いてください。

**124-8** は安南と透明駒の組み合わせ。このルールで、高坂研氏から2題、久保紀貴氏から1題投稿をいただいたのですが、まずは一番易しそうな本局に登場願いました。透明駒に惑わされず、安南の基本に忠実に解いてください。

**124-9** は青木裕一の最悪詰。配置と手数でどんな作品か想像できますね。最悪詰に慣れた人ならきっと暗算でも解けるでしょう。

**124-10** は変寝夢氏による中立駒作品。ただし、中立駒になっているのは玉なので、単玉の協力自玉詰という奇妙なルール設定になっています。同じルール設定による作品は **WFP95-10** でも出題されているので、当時の出題時の補足説明や結果稿を参考にしてください。

**124-11** 及び **124-12** は上田吉一氏の作品。変寝夢氏経由で投稿をいただいたものです。

**124-11** は中国象棋の *Pao* (包) を使った作品。上田氏は **122-2** でも包を使った作品を見せましたが、今回は包が持駒になっています。

もちろん受方の持駒は標準駒の残り全部なので、合駒の読みが必要になります。しっかり狙いを見定めないと紛れに苦戦させられますよ。

**124-12** は玉が動けない形。PWC なので初手88角はもちろん反則です(飛が77に復活して自玉への王手となる)。「成禁」の条件がなければ88飛を龍にして簡単に詰みますが、飛を成らせずにどうやって詰ますのでしょうか? 面白い謎解きになりそうですね。

#### 〔第125回作品展各題への補足説明〕

第125回の出題は全12題。今回登場する作者は久保紀貴氏、さんじろう氏、神無太郎氏、真T氏、占魚亭氏、上田吉一氏、たくぼん氏、変寝夢氏、馬屋原剛氏の9名です。今回は、さんじろう氏が本作品展初登場。ペンネームから推測できるかもしれませんが、古くからフェアリーに携わってきた大ベテランです。また、久保氏は **WFP79-5** 以来、久々の本作品展登場です。常連作家の継続的な活躍に加え、久々の作家に登場していただけるのは、とても喜ばしいことです。

**125-1** は久保紀貴氏による「透明駒&安南」の作品。同じルールで高坂研氏作と共に投稿をいただいた3作の一つです。前回の **124-8** と比べると格段に難度が上ですが、最も安南らしい手順にヤマを張れば意外と早く解けるかもしれません。

**125-2** 及び **125-3** は本作品展初登場のさんじろう氏の作品。*Knight* (騎) の双裸玉です。持駒が歩だけなので難しくはないはずですが、うっかり相手玉の利きに入らないよう気を付けてください。

**125-4** は神無太郎氏による「中立駒&*Imitator*」の作品。攻方持駒の金だけでなく、受方持駒も全部中立駒なので、スタイルメイトにするには特別な工夫が必要です。分かってみれば「これしかない」という手順なのですが、どうやって攻方をスタイルメイトにするのでしょうか?

**125-5** 及び **125-6** は真T氏お得意の最悪詰。**125-5** は最近の氏の作品から、狙いが予想できるとは思いますが、**125-6** はそうはいきません。しっかり変化・紛れを読み切ってください。

**125-7** は *Imitator* とフェアリー駒を組み合わせた占魚亭氏の作品。前回は通常の駒だったので、今回は中立駒の駒が使われているので、

これまでの作品より駒が多く動きそうです。中立駒ではありませんが、氏の過去作(123-3)が参考になると思います。

125-8 は上田吉一氏のPWC作品。一段目にずらっと並んだ香が何かを予感させますね。暗算で解けると思いますが、盤駒使用推奨です。

125-9 はたくぼん氏の強欲協力詰。初形と作者名だけで、内容が予想できますね。123-7(伊達悠氏作)に対する氏の短評にもヒントがありますよ。

125-10 は Locust (蝗) の活躍を楽しめる変寝夢氏の作品。まずは蝗を使った詰上りに目星を付けるのが先決ですね。

125-11 及び 125-12 は馬屋原氏の透明駒作品。125-12 は透明駒を使う以外は普通の詰将棋と同じルールです。特に無駄合概念が適用されることに留意が必要です。

### 解答要項

第 124 回分解答締切：2020 年 10 月 15 日 (木)

第 125 回分解答締切：2020 年 11 月 15 日 (日)

宛先：k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

### 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載しますが、投稿作が一回の出題数(12 題)を越えた場合、出題時期を調整させていただきます。

宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

### ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule119.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

#### 【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第 108 回 WFP 作品展 (WFP127 号)

#### 【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

#### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

#### 【キルケ】

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は生駒になって戻る。
- 2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩になったりする場合は戻れない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香(成駒も含む)が5筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。

#### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

#### 【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

#### 【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

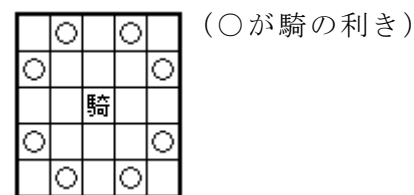
(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

#### 【Knight】(騎)

チェスの Knight。八方桂。



#### 【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように

応じる。

(補足)

- ・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【中立駒】(「𠄎」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

跳び越すことは可能。

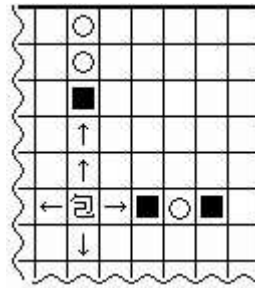
|  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
|  | 3 | 2 | 1 |   |
|  |   |   |   | 一 |
|  | ● | ● | ● | 二 |
|  | 角 | 桂 | 香 | 三 |

例えば左図で、  
 12 香や 11 香成は不可。  
 22 角や 11 角は不可。  
 11 桂成や 31 桂成は可。

【Pao】(包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を

取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【成禁】

手順中に成る手があってはならない。

(補足)

- ・あくまで手順中に「成」が出ないだけ。「詰」や「王手」の概念は通常通り。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

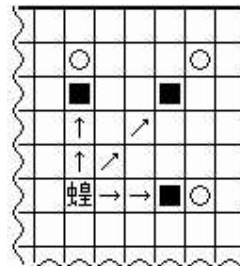
戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 取られた玉は復元しないものとする。

【Locust】(蝗)

フェアリーチェスの Locust (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



(○が蝗の利き。■は敵駒。これを取って○に移動する。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりすると跳べない。)

【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

<第 124 回>解答締切:2020 年 10 月 15 日(木)

- 124-1 神無太郎氏作  
点鏡協力自玉スタイルメイト 6 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   | 王 |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   | 王 |   |   |   |   | 九 |

持駒 銀

- 124-2 神無太郎氏作  
点鏡協力自玉スタイルメイト 8 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   | 王 |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   | 王 |   |   |   |   | 九 |

持駒 歩

- 124-3 高坂研氏作  
キルケ協力詰 3 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   | 皇 | 皇 | 王 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   | 歩 | 四 |
|   |   |   |   | 王 | 角 |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

※透明駒:攻方0枚、受方2枚  
逆算可能性を要請

- 124-4 占魚亭氏作  
協力自玉スタイルメイト 6 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   | 王 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   | ■ |   |   | 王 | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 騎

※■:Imitator、騎:Knight

- 124-5 真T氏作  
最悪詰 11 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   | 科 | 王 |   | 銀 | と | 皇 | 銀 | 一 |
|   | 歩 | 歩 |   | 香 |   |   | 王 | 二 |
|   |   |   | 歩 |   | 香 | 飛 |   | 三 |
|   | 角 |   |   | 歩 | 歩 | 角 |   | 四 |
|   | 桂 |   | 香 |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   | 桂 |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

- 124-6 真T氏作  
最悪詰 13 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   | 科 | 角 |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   | 銀 | 皇 |   |   | 六 |
| 龍 | 歩 |   | 銀 |   |   |   |   | 七 |
| 歩 |   | 歩 | 王 |   | 王 |   |   | 八 |
|   | 桂 | 皇 | 皇 | 桂 |   |   |   | 九 |

持駒 金4

■ 124-7 馬屋原剛氏作  
詰将棋 241手

|   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|
|   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |
|   | 馬 | 馬 |   | 銀 |   |   |   |  |   | 一 |
| 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 |   |   |  | 馬 | 二 |
|   |   |   |   | 桂 | 桂 | 銀 |   |  |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   | 金 |   |  |   | 四 |
|   |   |   |   |   | 桂 |   |   |  | 馬 | 五 |
|   |   |   |   | 歩 | 桂 |   |   |  |   | 六 |
|   |   |   |   |   | 銀 |   |   |  |   | 七 |
|   |   |   |   |   | 玉 |   | 龍 |  |   | 八 |
| 香 | 香 | 香 | 香 |   |   |   |   |  |   | 九 |

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

※透明駒:攻方1枚、受方1枚  
連続王手の千日手(同一局面4回)は禁手

■ 124-8 高坂研氏作  
安南協力詰 3手

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 一 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 二 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 三 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 四 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  | 王 | 五 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 六 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 七 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 八 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |   | 九 |

持駒 なし  
※透明駒:攻方1枚、受方0枚

■ 124-9 青木裕一氏作  
最悪詰 75手

|   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|
|   |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |
| と | と |   | と |   | と |   | と |  |   | 一 |
| と | 歩 |   | 歩 |   | 歩 |   | 歩 |  | 香 | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   | 銀 |  | 王 | 三 |
|   | 香 |   | 香 |   | 香 | 銀 | 銀 |  | 桂 | 四 |
| と | 桂 |   | 桂 |   | 桂 |   |   |  |   | 五 |
|   | 角 | と | 銀 | と | 角 | と |   |  |   | 六 |
|   | 飛 | 歩 | 金 | 歩 | 飛 | 歩 | と |  |   | 七 |
|   | 金 |   | 金 |   | 金 |   |   |  |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |  | 王 | 九 |

持駒 なし

■ 124-10 変寝夢氏作  
協力自玉詰 16手

|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |
|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   | 一 |
|  |  |  |  |  |  | 馬 |   | 馬 |   | 二 |
|  |  |  |  |  |  | 角 | 桂 |   |   | 三 |
|  |  |  |  |  |  |   |   | と | 飛 | 四 |
|  |  |  |  |  |  | 歩 |   |   |   | 五 |
|  |  |  |  |  |  |   |   | ● |   | 六 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   | 七 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   | 八 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   | 九 |

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

※42玉は中立駒  
●:着手不可、不透過

■ 124-11 上田吉一氏作  
協力詰 7手

|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  |   |
|--|--|--|--|--|--|---|--|---|--|---|
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  |   |
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  | 一 |
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  | 二 |
|  |  |  |  |  |  | 歩 |  |   |  | 三 |
|  |  |  |  |  |  | 王 |  | 王 |  | 四 |
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  | 五 |
|  |  |  |  |  |  | 歩 |  |   |  | 六 |
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  | 七 |
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  | 八 |
|  |  |  |  |  |  |   |  |   |  | 九 |

持駒 包  
※包:Pao

■ 124-12 上田吉一氏作  
成禁PWC協力詰 25手

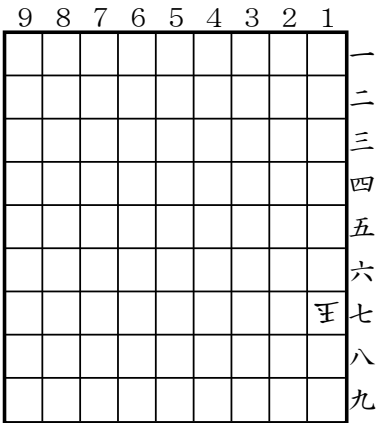
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  |   |
|---|---|--|--|--|--|---|---|---|--|---|
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  |   |
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  | 一 |
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  | 二 |
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  | 三 |
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  | 四 |
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  | 五 |
|   |   |  |  |  |  |   |   |   |  | 六 |
|   |   |  |  |  |  | 銀 | 角 | 王 |  | 七 |
| 角 | 飛 |  |  |  |  |   |   |   |  | 八 |
| 王 |   |  |  |  |  |   |   | 馬 |  | 九 |

持駒 飛



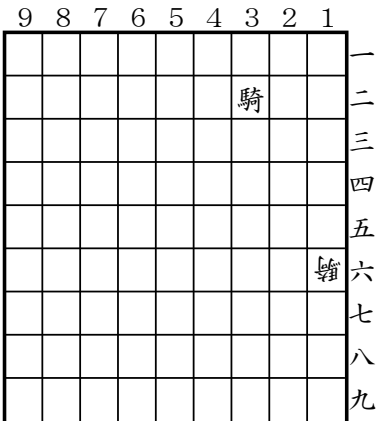
<第 125 回>解答締切:2020 年 11 月 15 日(日)

■ 125-1 久保紀貴氏作  
安南協力詰 3手



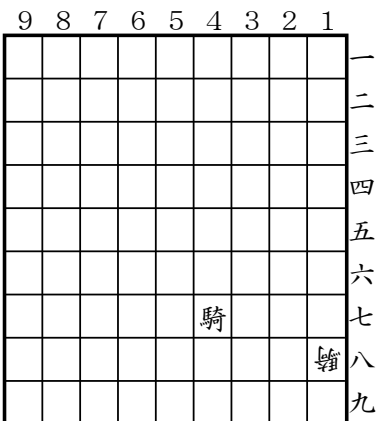
持駒 桂  
※透明駒:攻方2枚、受方1枚

■ 125-2 さんじろう氏作  
協力詰 17手



持駒 歩3  
※駒:Knight王

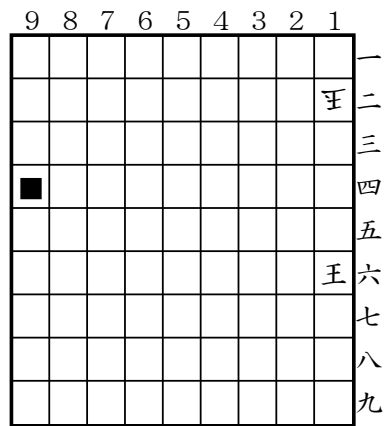
■ 125-3 さんじろう氏作  
協力詰 17手



持駒 歩5  
※駒:Knight王

■ 125-4 神無太郎氏作

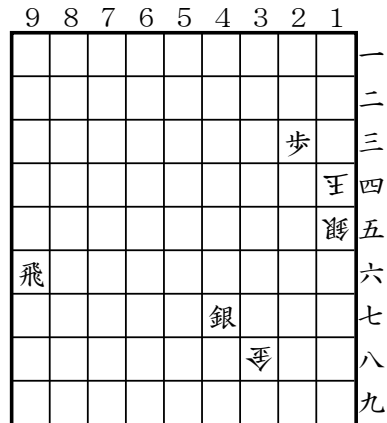
協力自玉スタイルメイト 6手



持駒 n金  
※■:Imitator  
玉以外はすべて中立駒

■ 125-5 真T氏作

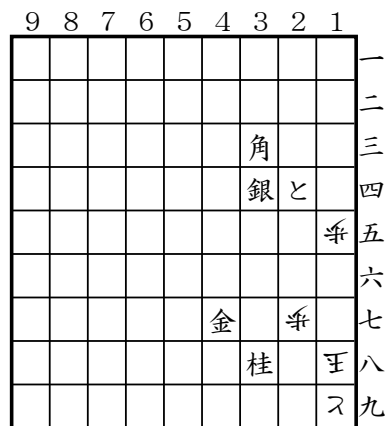
最悪詰 37手



持駒 なし

■ 125-6 真T氏作

最悪詰 23手



持駒 飛

■ 125-7 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手

|   |   |   |   |   |   |   |     |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|-----|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2   | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |     | 王 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   | ■ 王 |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |     |   | 九 |

持駒 n騎

※■:Imitator

n騎:中立Knight

■ 125-8 上田吉一氏作

PWC協力自玉詰 10手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   | 王 | 皇 | 皇 | 皇 | 皇 |   |   | 一 |
| 飛 |   |   |   |   |   |   |   | 馬 | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   | 王 |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

■ 125-9 たくぼん氏作

強欲協力詰 89手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| と | ス |   | 銀 |   |   | と | ス | と | 一 |
| 糸 | ス | と | 帝 |   |   | と |   |   | 二 |
| 飛 | 駒 | 歩 |   |   |   | 銀 |   |   | 三 |
| 銀 | 歩 | 金 | 歩 |   |   | 科 | 科 |   | 四 |
| 金 | 桂 | 金 |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   | 角 |   |   | 龍 | ス | 糸 | 歩 |   | 六 |
|   | 皇 |   |   |   | ス | 香 | と |   | 七 |
| 桂 | 香 | 王 |   |   | 香 |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   | 角 | と | 九 |

持駒 なし

■ 125-10 変寝夢氏作

協力自玉詰 10手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   | 角 |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   | 驪 |   |   |   |   |   | 科 | 四 |
|   |   |   |   |   | 王 |   | 王 |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   | 桂 |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

攻方持駒 金4

受方持駒 なし

※蝗:Locust

■ 125-11 馬屋原剛氏作

協力詰 5手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   | 皇 |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   | 龍 | 香 |   | 王 |   |   |   | 七 |
|   |   | 香 |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

※透明駒:攻方0枚、受方1枚

■ 125-12 馬屋原剛氏作

詰将棋 5手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 皇 | 一 |
|   |   | ス |   |   | と | 科 |   |   | 二 |
|   |   |   | 科 | 科 |   |   |   |   | 三 |
|   |   | と |   | 王 | ス |   | 飛 |   | 四 |
|   |   |   | ス |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   | 香 |   |   | 六 |
|   |   |   | 駒 | と | 糸 |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 歩

※透明駒:攻方1枚、受方0枚

以上

## 「第 53 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 53 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「7」です。

「7」は詰将棋とゆかりの深い数字です。

玉以外の駒が七種あることから「七種合」や「七色図式」等の分野が生まれ、盤の大きさが9×9であることから「七連続合」等の主題が生まれました。昨年刊行された「Limit7」では、「使用駒数7枚」が簡素図式の指標とされてきましたね。上記以外でも、7手詰、七の字の曲詰等、「7」に関係していればどんな作品でも構いません。何らかの点で「7」にちなんだ作品をお寄せください。

また、1題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。こちらは必ずしもお題とは関係なくとも構いませんが、お題に合った作品を優先して採用したいと思います。

蛇足ながら、「氾濫 53」の出題は詰パラ 12月号、即ち通巻 777号の予定です（実はこれが今回このお題が選ばれた理由です）。

|       |   |
|-------|---|
| 作品要件  | 7にちなんだ作品  |
| 募集締切  | 2020年10月18日（日）                                    |
| 募集作品数 | 4 + 1（協力詰枠）                                       |
| 送り先   | 神無七郎（k7ro.ts@gmail.com）<br>上記宛先へ E-mail でお送りください。 |
| 備考    | 1人何作でも投稿可。採否は10月25日までに通知します。                      |



# Fairy of the Forest #64

担当：酒井博久

- 2020年07月20日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」
- 2020年09月15日：投稿締切
- 2020年09月20日：出題
- 2020年10月15日：解答締切
- 2020年10月20日：結果発表

## ■ 出題

前回少し出題数が増え喜んでいたところ、今回はもっと嬉しい事態が待ち構えていました。看空さんから5手詰の大量投稿があり、図らずも出題数が急増したのです。看空氏以外にも、多士済々です。

04~10は、指定された数の解をお答えください。13~15は、「受方持駒制限」にご注意ください。

短手数作が多いとはいえ長編も控えているので、全解は大変かも知れません。解けただけでも結構ですので、ご解答をお寄せください。

(解答先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

### ■ 64-01 上谷直希

協力詰 5手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 王 | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   | 歩 |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 飛銀歩

### ■ 64-02 小林看空

協力詰 5手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 銀 | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   | 王 |   |   |   | 三 |
|   |   | 馬 |   | 桂 |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   | 飛 |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

### ■ 64-03 小林看空

協力詰 5手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   | 龍 |   | 三 |
|   |   |   |   | 桂 | 王 |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   | 龍 |   | 桂 | 桂 |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

### ■ 64-04 小林看空

協力詰 5手 (2解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   | 馬 |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   | 王 |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   | 桂 |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   | 飛 |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   | 香 |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

■ 64-05 小林看空

協力詰 5手 (2解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   | 角 |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   | 科 |   |   | 鬮 | 二 |
|   |   |   |   | 銀 |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   | 王 |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 角

■ 64-08 小林看空

協力詰 5手 (2解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   | 桂 |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 王 | 王 | 三 |
|   |   |   |   |   |   | 桂 |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   | 飛 | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

■ 64-06 小林看空

協力詰 5手 (2解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   | 飛 |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   | 角 |   | 王 |   | 二 |
|   | 王 |   |   |   |   |   | 銀 | 三 |
|   |   |   |   | 王 |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

■ 64-09 小林看空

協力詰 5手 (2解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   | 王 |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 桂 |   | 三 |
|   | 龍 | 桂 | 王 |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 角

■ 64-07 小林看空

協力詰 5手 (2解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 桂 |   | 三 |
|   | 龍 | 桂 | 王 |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   | 王 |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
| 馬 |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

■ 64-10 小林看空

協力詰 5手 (3解)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   | 角 | 飛 |   |   | 一 |
|   |   | 王 |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   | 王 |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

■ 64-11 馬屋原剛

協力詰 7手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
| 馬 |   |   |   |   |   | 王 |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   | 香 |   |   |   | 角 | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   | 玉 |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 飛

■ 64-12 馬屋原剛

協力詰 7手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
| 馬 |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   | 王 |   | 銀 |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   | 銀 |   | 玉 |   |   |   | 九 |

持駒 飛

■ 64-13 青木裕一

協力詰 45手

持駒 なし

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   | 香 | 角 |   |   | 一 |   |
|   |   |   |   |   | 皇 |   |   | 二 |   |
|   |   |   |   |   | 皇 |   |   | 三 |   |
|   |   | 香 |   |   | 香 |   | 銀 | 四 |   |
|   |   |   | 香 |   | 入 | 歩 | 進 | 五 |   |
|   |   |   | 銀 | と |   |   | 飛 | 六 |   |
|   |   |   |   | 桂 | 香 | 王 |   | 七 |   |
|   |   | 金 | 歩 |   |   | 桂 |   | 八 |   |
|   |   | 歩 |   |   |   | 桂 | 玉 | 馬 | 九 |

持駒 なし

■ 64-14 たくぼん

協力詰 107手

持駒 なし

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |   |
|   |   |   |   |   | 銀 | 銀 |   | 三 |   |
|   |   |   |   | 歩 | 桂 | 桂 | 桂 | 進 | 四 |
|   |   |   |   | 入 | 入 | 入 | 王 |   | 五 |
|   |   |   |   | 香 | 入 | 入 |   |   | 六 |
|   |   |   |   | 香 |   | 入 |   |   | 七 |
|   |   |   |   | 香 |   |   |   | 飛 | 八 |
|   |   |   |   | 香 |   | 入 |   | 玉 | 九 |

持駒 歩3

■ 64-15 神無七郎

協力詰 131手

持駒 歩3

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 科 | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 進 | 飛 | 玉 | 三 |
|   |   |   |   | と | 銀 | 香 |   | 角 | 四 |
|   |   |   |   | 歩 |   | 香 |   | 王 | 五 |
|   |   |   |   |   | 歩 | 香 |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   | 歩 |   | 七 |
|   |   |   |   | 香 | 入 |   | 入 | 歩 | 八 |
|   |   |   |   |   | 桂 |   |   |   | 九 |

持駒 なし

# 第123回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第 123 回 WFP 作品展の結果を報告します。  
 今回の出題は全 12 題（複数解を求める作品を含むので実質 13 題）。解答者数 9 名。全題正解者 1 名。解答の内訳は以下の通りです。

## 〔第 123 回 WFP 作品展成績〕（敬称略）

○:正解・余詰解 ×:誤解 -:無解

| 解答者名    | 1 | 2 <sub>1</sub> | 2 <sub>2</sub> | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計  |
|---------|---|----------------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| たくぼん    | ○ | ○              | ○              | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | 13 |
| 真T      | ○ | ○              | ○              | - | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | 12 |
| はなさかしろう | ○ | ○              | ○              | - | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○  | ○  | ○  | 11 |
| 占魚亭     | ○ | ○              | ○              | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | -  | ○  | -  | 9  |
| 神在月生    | - | ○              | ○              | - | ○ | ○ | - | ○ | - | ○ | ○  | -  | ○  | 8  |
| 北村太路    | - | ○              | ○              | - | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | -  | ○  | -  | 7  |
| 一乗谷酔象   | - | ○              | ○              | - | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | -  | ○  | -  | 7  |
| 変寝夢     | - | ○              | ○              | - | - | ○ | - | - | - | - | -  | ○  | -  | 4  |
| 暇人 EX   | - | ○              | ○              | - | - | - | - | - | - | - | -  | ○  | -  | 3  |

いつも解答者の「壁」となる Imitator を使った 123-3、重厚な変化紛れを持つ 123-6。今回はこの 2 つの壁を突破し、たくぼん氏が全題正解を達成しました。全体的な解答成績も良好でした。作品内容も充実しているので、この結果稿でそれを伝えられれば幸いです。

### ■ 123-1 神無太郎氏作（正解 4 名）

点鏡協力自玉スタイルメイト 𠄎

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|  |  |  |  |   |  |  |  |   |   |
|--|--|--|--|---|--|--|--|---|---|
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 一 |
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 二 |
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 三 |
|  |  |  |  |   |  |  |  | 王 | 四 |
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 五 |
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 六 |
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 七 |
|  |  |  |  |   |  |  |  |   | 八 |
|  |  |  |  | 王 |  |  |  |   | 九 |

持駒 角

#### 【ルール】

##### • 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっているが合法手のない状態）にする。

##### • 点鏡

55 に関して点对称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

（補足）

• 行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第 108 回 WFP 作品展（WFP127 号）

#### 【解答】

77 角 33 金 86 角 24 銀 95 角 15 金  
 まで 6 手

（最終形）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 9 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 8 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 7 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 6 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 5 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 4 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 3 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 2 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 1 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 一 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 二 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 三 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 四 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 五 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 六 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 七 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 八 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 九 |

持駒 なし

#### 【解説】

空中に浮かぶ金銀の階段でスタイルメイトを実現する美しい小品。

協力自玉スタイルメイトで中段の端玉を囲む代表的な形は「腹銀」です。これは銀の下が空いているので、もう一枚の駒でその弱点を補い、同時に銀に紐を付けます。つまり、この初形に受方 33 金・24 銀を加えれば玉の包囲は完了です。点鏡らしく攻方玉の利きを弱めることも考えられますが、96 地点に駒を発生させるのは難しいので、本局では読みから除外して構いません。

問題なのは角の処理です。角は金銀を発生させるのに必要ですが、そのためには角を受方玉の遠くから打たねばならず、最後に角を取るという手段でスタイルメイトを達成することはできません。

これを解決するのが、性能変化ルール特有のピン止めです。

本局の最終形をご覧ください。95 角が動く

15 金が元の利きに戻って自玉への王手となります。従って角は動くことはできません。15 金は合駒ではありませんが、玉を人質にして相手駒を動けなくしているのが、構造的にはこれもピン止めなのです。

空中発生する金銀の列は、氏の「百万石」を連想させます。本局はこれに比べれば小規模ですが、点鏡でも対面ルールと同様の手順を実現できるという一つの実例となるでしょう。他のテーマについて、このような「ルール間移植」が可能かどうか考察してみるのもお勧めです。

【参考】 空中に浮かぶ金銀の列

神無太郎 作「百万石」

対面ばか自殺詰 16手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|   |   |   |  |   |  |  |  |  |   |
|---|---|---|--|---|--|--|--|--|---|
|   |   |   |  |   |  |  |  |  | 一 |
|   |   |   |  | 王 |  |  |  |  | 二 |
|   |   |   |  |   |  |  |  |  | 三 |
|   |   |   |  |   |  |  |  |  | 四 |
|   |   |   |  |   |  |  |  |  | 五 |
|   |   |   |  |   |  |  |  |  | 六 |
|   |   |   |  |   |  |  |  |  | 七 |
| 金 | 銀 |   |  |   |  |  |  |  | 八 |
| 王 | 銀 | 馬 |  |   |  |  |  |  | 九 |

持駒 なし

(詰将棋パラダイス,1994年12月)

88 馬 87 銀成 77 馬 76 金 66 馬 65 金  
55 馬 54 金 44 馬 43 銀 33 馬 32 銀打  
22 馬 21 金 11 馬 33 角 まで 16 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|   |   |  |  |   |   |  |  |    |   |
|---|---|--|--|---|---|--|--|----|---|
|   |   |  |  |   |   |  |  | 金馬 | 一 |
|   |   |  |  | 王 | 銀 |  |  |    | 二 |
|   |   |  |  | 銀 | 馬 |  |  |    | 三 |
|   |   |  |  | 金 |   |  |  |    | 四 |
|   |   |  |  | 銀 |   |  |  |    | 五 |
|   |   |  |  | 馬 |   |  |  |    | 六 |
|   |   |  |  | 金 |   |  |  |    | 七 |
| 金 |   |  |  |   |   |  |  |    | 八 |
| 王 | 銀 |  |  |   |   |  |  |    | 九 |

持駒 なし

【短評】

真Tさん

初手の第一感は 95 角。

土台から作っていくのが面白い。

たくぼんさん

普通は 95 角から考えるのでこの逆順は意表の展開。あまり見たことの無い順。

占魚亭さん

最終形が見えやすいので、易しかったです。

変寝夢さん (※無解)

そうか、この最終手は利きのモデルの駒を動かされて失敗と思っていたが、自玉スタイルメイトなら逆なんですね。

はなさかしろうさん

これでいいのかな?! という感じですが、面白いのでこれをお願いします。

■ 123-2 高坂研氏作 (正解 9 名)

キルケ協力詰 3手 (2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |
|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |   |   | 皇 | 一 |
|  |  |  |  |  |  |   |   | 王 | 二 |
|  |  |  |  |  |  | 銀 | 金 |   | 三 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 四 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 五 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 六 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 七 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 八 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 九 |

持駒 なし

※透明駒:攻方1枚、受方0枚

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

• 透明駒

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」



•キルケ

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 5) 成駒は生駒になって戻る。
- 6) 戻り位置が埋まっていたり、二歩になったりする場合は戻れない。
- 7) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 8) 金銀桂香(成駒も含む)が5筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻り位置を選択できる。

【解答】(※透明性を失った駒を括弧内に記述)

1) - X 42 銀 - X まで 3 手

(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   | X | 皇 | 一 |
|   |   |   |   |   | 將 |   | X | 王 | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   | X | 兵 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

※最終手は

21飛成・22飛・22飛成・23飛成  
のいずれか

2) - X 34 銀 - X(=22 角成) まで 3 手

(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 皇 | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   | 馬 | 王 | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 兵 | 三 |
|   |   |   |   |   | 將 |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

【作者のコメント】

1 解目では、2 手目 42 銀から初手が 42 と 92 を結ぶ線上に透明飛(龍)の着手があったことが分かり、更に 3 手目 X により銀に取られた飛が 28 に復活していたことが判明する。

2 解目も同様に、こちらは角が復活している。

極めて簡単だが、簡潔な配置で「見えない駒による fairymate2 種」の ODT が表現できた。(ちなみに、X、22 銀、同 X? は、31 に銀が復活するので 4 手目 22 同銀と取られて逃れである)

なお、本作の創作過程においては久保君の助力があったことを記しておきたい。

【解説】

攻方の駒がまったくない(ように見える)初形からキルケ特有の「紐なし王手」の詰上り。馬の詰上りはちゃんと目に見えますが、飛(龍)の詰上りは目に見えないので、心の眼で見てください。

本局は透明駒とキルケの組み合わせ。キルケの特性は銀が 22 で透明駒を取る筋の防止にも働いていますが、ここでは作意にどう活かされているかを中心に説明します。

キルケの特性はまず透明駒を取ったと主張するところで使われています。両解共、2 手目は銀が動いていますが、これだけでは透明駒を取ったとは限りません。これが移動合だった可能性もあるからです。ところが 3 手目、今度は銀が 31 に復活していません。透明駒は 1 枚だけです。2 手目が移動合だったら銀は取られて、一番近い原位置である 31 に復活せねばなりません。それが行われていないということは、2 手目は移動合ではなく、透明駒を取った手だったということになります。そして、銀が取った位置に応じて、王手駒が飛や角だったことも判明します。

厳密に言えば、透明駒とキルケを組み合わせたとき、透明駒の復元があったことを指定できるかどうかはルールとして説明すべき事項ですが、解答者の皆さんは空気を読んで「復元は指定できず、一連の手順の中で明らかにしなければならぬ」と解釈してくださったようです。本当は WFP121-7 の出題・解説時に明らかにし

ておけば良かったのですが、あの作品では駒の復活が手順表面には現れなかったので、ついつい忘れていました。

さて、キルケの特性が現れているもう一つの箇所は最終手。王手駒を取れば、それが復活して自玉への王手となるので、受方はこれを取り返せず詰みとなります。

馬で詰める方の解（便宜上、これを解 2）としていますが、馬がその正体を現すので明快ですね。88 角が 12 玉に王手を掛けるには成るしかありませんし、11 香を取っていないので場所も 22 に確定します。

飛(龍)で詰める方の解（これを解 1）とします。は最後まで透明駒は正体を完全には現しません。13 歩があるので、28 飛は 2 筋で王手を掛けるしかありませんが、可能な王手（21 飛成・22 飛成・22 飛不成・23 飛成の 4 つ）のどれを選んでも、玉でこれを取り返すことはできません。

こうして飛と角による「紐なし王手の詰」の共演が実現しました。縦と斜めで同じ構造の手順が対比する構成は ODT (Orthogonal Diagonal Transformation、直斜対照性) と呼ばれます。WFP119-10 (上田吉一氏作) でもこの用語は出て来たので、覚えている人も多いでしょう。

自陣から 12 玉に王手を掛けられる駒は飛角香の 3 種類があります。今回の作品には香による解は含まれていないのですが、いずれは香が活躍する作品も見られることでしょう。

【短評】

真 T さん

飛と角できれいな 2 解。

たくぼんさん

飛の場合は最終手が 3 つ（成生入れれば 4 つか）、角の場合は 1 つというのもちょっと面白い。

占魚亭さん

飛・角の対比ですね。

変寝夢さん

最初 2 手目 2 2 銀でダメなのと思ったが、取り返した時 3 1 に復活することを確認ス

ッキリした。

北村太路さん

解説で七郎さんが説明してくれるからいいけど棋譜だけ見たら「本当にこの人解けてるの？」ってのが全くわからないですね。

1 解目なんか可能な 4 種類の王手（一成、二不成、三成、四成）が全部詰んでいて棋譜上は同一だから余詰じゃない、なんてなんか詐欺のようです。

神在月生さん

なるほど、13 歩がなければ 1 解、11 香がなければ不詰か？

☆13 歩がないと最終手 18 飛の可能性が残り、11 香がないと 11 角成の可能性が残って困るというわけですね。ただ、13 歩がない場合は「-X 13 歩 -X (=23 龍)」の筋がありそうですし、11 香がない場合に想定外の詰みがないとは筆者には断言できません。

これは作者にお答えいただきましょう。

一乗谷酔象さん

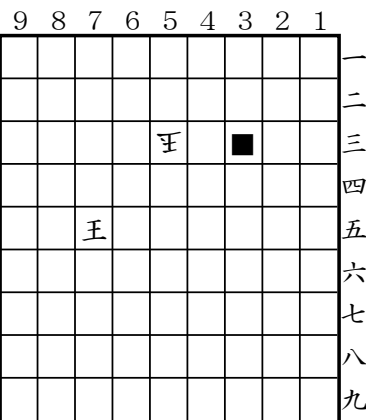
31 銀で復活されると困るので 22 で精算するのは避ける。

はなさかしろうさん

22 銀だと詰まないんですね。

■ 123-3 占魚亭氏作（正解 2 名）※実質 1 名！

協力自玉詰 6 手



持駒 騎

※■:Imitator、騎:Knight

【ルール】

•協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

•Imitator (■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

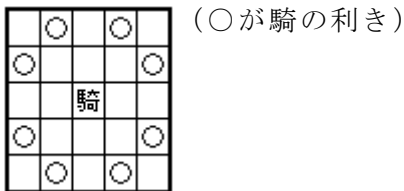
(補足)

- 駒を打ったときは動かない。
- Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitator の紹介」

•Knight (騎)

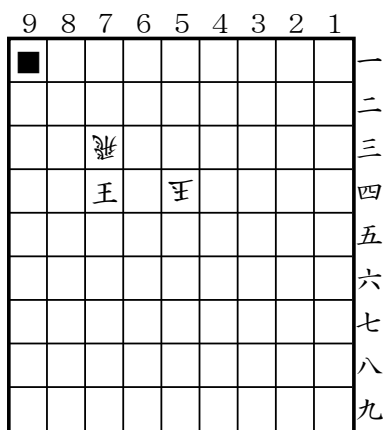
チェスの Knight。八方桂。



【解答】

65 騎 54 玉[I34] 73 騎[I42] 23 飛  
74 王[I41] 73 飛[I91] まで 6 手

(詰上り)



【作者のコメント】

Knight+Imitator です (Nightrider との併用作の前に投稿した方がよかったですね)。

Nightrider と同様に飛車を出す展開になりますが、通常属性では Nightrider よりも扱いやすいと感じました。

壁駒で出した飛車で Knight を取る流れへと上手く繋げられたと思います。

【解説】

「Imitator は盤隅に」という格言に忠実な作品。Knight と Imitator が併用されているので、大技を予想してしまいますが、むしろその事前準備が重要です。

Imitator を隅に運ぶには飛を発生させるのが一番ですが、いきなり飛を発生させる「41 騎 45 飛」や「61 騎 25 飛」は、どうしても 2 手足りなくなります。

作意冒頭の 2 手は、のんびりした手順に見えますし、Imitator を四段目に上げてしまうので、心理的に抵抗がありますが、この後 Knight (騎) を上に二段分跳ねて王手ができるので、差引き一段分 Imitator を盤端に近付けることができます。不利に見えて、実は理に適った手順というわけです。

こうして準備を整えてから、飛の発生とその移動で Imitator を盤隅に運ぶ手順を実行します。すると、最終手が「紐なし王手」の逆王手になって、鮮やかに自玉を詰上げます。この飛を取る手は Imitator が盤外にはみ出すので、もちろん指せません。

最終手で騎が盤上から消えてしまうのは、意外な幕切れです。騎がなくなることで、最終手で詰んでいるかどうかの確認がしやすく、解答者にとっては有り難い構成だったと思います。

【短評】

たくぼんさん

■を 91 に持って行く展開を考えると飛かなとひらめきました。

変寝夢さん (※無解)

2 手目は普通に逃げるんですね。ナイトは動きは地味ですが、利きは強烈ですね。

☆本局の (作者以外の) 唯一人の正解者はたくぼん氏。ルールを見ただけで白旗を揚げる解答者が多い中、どんな難問にもチャレンジする姿勢は尊敬に値します。また、自力で解けなくても感想を送ってくださる変寝夢氏にはいつも感謝しています。解けなくても、どこで躓いたかということが分かるので、解説の参考にさせて貰っています。

■ 123-4 上田吉一氏作 (正解 7名)

協力詰 9手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   | 皇 |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   | 皇 |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
| 王 |   |   | ○ |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   | 皇 |   |   |   |   |   |   | 八 |
| 王 |   | 金 |   |   |   |   |   |   | 九 |

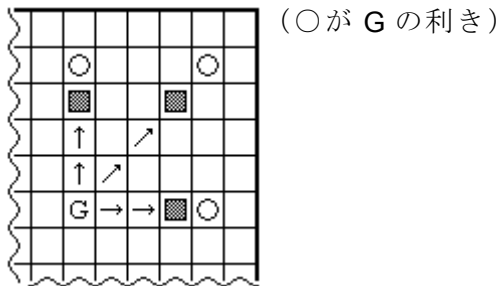
持駒 G

※G:Grasshopper

【ルール】

•Grasshopper (G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



【解答】

89 金 同G 19G 29 香成 39G 49 香成  
59G 69 角生 79G まで 9手

(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
| 王 |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
| 王 | ○ | G | 皇 |   | 皇 |   | 皇 |   | 九 |

持駒 なし

【解説】

跳躍台を最速で撤去する連続移動合。

冒頭2手は攻方Gで王手できるようにする跳躍台の設置。金の捨駒を受方はGrasshopper(G)で取ります。ここは角で取る紛れに少し誘われますが、手順を進めるとGで取らないといけないことが自然に分かります。

3手目19Gの最遠打に対して、主題の連続移動合が登場します。この移動合の目的は2手目に設置した跳躍台であるG自身が、跳躍して逃げるのを防ぐこと。Gは跳躍台がないと、ただの石ころになるのです。

移動するのが全部香ではなく、角が一つ混じっているのは破調ですが、香は最下段に不成で移動できないので仕方ありません。ただ、角を混ぜたおかげで、2手目に角で取る紛れが生じ、8手目角不成の小技も入ったので、むしろ手順に彩りを与える効果を上げています。

氏のWFP122-2はPao(包)を無力化する作品でしたが、本局はGを無力化する作品です。周りを塞いで閉じ込める122-2と、派手な大移動の本局。主題は同じでも表現が違えばこんなにも作品の趣は変わるのですね。

【短評】

真Tさん

ジャンプ台をなくす事前準備で移動合連発が気持ちいい。

たくぼんさん

上田さんのこのシリーズは気軽に解けるので大好きです。

占魚亭さん

19G以降の流れが楽しかったです。

変寝夢さん (※無解)

理屈を知らなくても楽しめる、理屈を知るとさらに面白く感じられる作品っていいと思います。

北村太路さん

邪魔な支柱を全部引き抜く最遠打。

**神在月生さん**

玉方 G 移動支援駒を移動させておくという、論理的な目的の遠打からの、G 三段跳び趣向手順。初心者にも分かり易く楽しめる。

**一乗谷酔象さん**

受方Gの無力化する協力手。  
2筋の香まで受けに効いているとは。

**はなさかしろうさん**

ダイヤモンドゲームみたいな動きが楽しいです。

■ 123-5 真T氏作 (正解8名)

最悪詰 19手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 王 | 皇 | 歩 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   | 香 | 王 | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   | 歩 | 銀 | 六 |
|   |   |   | 飛 |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

【ルール】

• 最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

(補足)

・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

【解答】

25 銀 同金 64 飛 54 銀 同飛 44 銀  
同飛 34 銀 同飛 24 銀 同飛 同金  
25 銀 同金 15 銀 同金 25 銀 同香  
23 銀 まで 19 手

(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 王 | 銀 | 歩 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 王 | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   | 皇 | 香 | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   | 歩 |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

【主な変化】

- ・初手 15 銀は同金、64 飛、24 香、同飛まで。
- ・3 手目 17 飛は 16 銀、同飛、15 銀、同飛、同金、25 銀、同香、23 銀まで。
- ・9 手目 15 銀は同金、34 飛、24 銀、同飛、同香、25 銀、同香、23 銀まで。

【作者のコメント】

狙いは銀の 4 連合。  
少ない駒数でまとまったので投稿します。

【解説】

簡素な構図で 4 銀連合・4 銀連打を実現した作品。

まずは、連合物の基本的な「謎」である 2 つの疑問についてチェックしていきましょう。

その疑問とは「なぜすべて銀なのか?」、「なぜ 4 枚渡すのか?」の 2 つ。

前者の問いへの答えは「銀以外の駒を渡すと銀を先に使われてしまい、最後の 23 銀ができなくなるから」。合駒に金を混ぜても最後が 24 金になるから良いじゃないかと思う人もいるかもしれませんが、作意同様に進んで 15 手目に 24 金とされると困ります。最悪詰で攻方の選択肢を増やすと、不詰に誘導されやすいので、合駒の種類を絞るのは受方の基本的戦略です。

後者の問いへの答えは「必要な枚数を攻方に与えるため」。例えば 3 枚で済まそうとして、34 銀を省略するとしましょう。作意通りだと駒不足なので、受方はどこかで別の選択肢を選ばねばなりません。しかし、有効な選択肢は意外とありません。敢えて指すとすれば 24 同飛のときに同金とする代わりに同香とするくらいです

が、それでは 15 銀とせずに 23 銀とされて不詰となります。

これ以外にも「途中で取った銀を使うとどうなるの?」とか、「初手 25 銀でなく 15 銀とするとどうなるの?」などの疑問が浮かぶと思いますが、それは〔主な変化〕をご覧ください。中でも面白いのが 3 手目飛を横に使う変化。何とここでも、銀の連続合が出てきます。同じ舞台装置を使っているの、同じような手順が出るのは自然なことなのですが、こういう変化があると手順の味わいはとても良くなります。

なお、最悪詰では過去にも 4 銀連続合を実現した作品があります。本局は横型の連続合ですが、これは縦型の連続合です。

〔参考〕 縦の 4 銀連続合

菊田裕司 作  
最悪詰 23 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   | 皇 |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   | 皇 |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   | 糸 | 歩 | 皇 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   | 王 |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   | 桂 |   | 糸 | 五 |
|   |   |   |   | 桂 |   | 歩 |   | 歩 | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   | 飛 | 桂 |   |   |   | 九 |

持駒 銀  
(カピタン,1990年5月)

25 銀 同玉 37 桂 24 玉 29 飛 28 銀  
同飛 27 銀 同飛 26 銀 同飛 25 銀  
同飛 34 玉 43 銀 同香 45 銀 同香  
43 銀 同香 24 飛 同玉 25 銀 まで 23 手

なお、本局が双玉なのは 44 銀合や 24 銀合を逆王手にして取らざるを得なくするためです。33 王 1 枚を 33 と・36 桂の 2 枚に置き換えると銀合が逆王手にならないため、19 手では詰まず、全然違う手順で詰むことを確認してください。

話が連続合の方に集中してしまいましたが、合駒で得た銀の処理も一切無駄なく見事です。1 枚の金で 2 枚の銀を取れる構図の発見が成功の要因でしょう。作者は 121-6 で「4 桂連合・

4 桂連捨」を見せてくれました。本局は「連捨」ではないものの、簡潔な構図で「4 銀連合・4 銀連打」を達成した好作です。

【短評】

たくぼんさん

連合シリーズ。初手銀捨てなので 4 銀合かなと思ったらどんぴしゃ。銀 4 連打のシンプルさが好印象。

占魚亭さん

綺麗な手順、見事な四連続銀合。

変寝夢さん

3 4 銀合の時の 1 5 銀の紛れが読み切れていないが詰むのだろう。

初手 1 5 銀の紛れで作意が見えてしまっているのかな？

北村太路さん

9 手目 1 五銀だと早詰なのが上手く出来ている。

神在月生さん

15 銀、同金、64 飛、34 銀、同飛、24 銀、同飛、同香、25 銀、同香、23 銀迄 11 手がなぜだめかわからないままに解答。

☆最悪詰では攻方は最長手順を選ばねばなりません。従って 11 手で詰む手を選ぶのは失敗です。実際には初手 15 銀は更に短く、〔主な変化〕にある通り、5 手で詰んでしまいます。

一乗谷酔象さん

少ない駒数でオーロラが出現。  
33 玉配置が絶妙。

はなさかしろうさん

銀の数がぴったりでした。



■ 123-6 真T氏作（正解2名） ※実質1名！

最悪詰 45手

|   |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |
|---|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|
|   |  |  |  |  |   |   |   | 歩 | 王 | 一 |
|   |  |  |  |  | 歩 | 歩 | 歩 |   |   | 二 |
|   |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 三 |
|   |  |  |  |  |   |   |   |   | 王 | 四 |
| 飛 |  |  |  |  |   |   | 桂 |   | 桂 | 五 |
|   |  |  |  |  |   |   | 馬 | 科 |   | 六 |
|   |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 七 |
|   |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 八 |
|   |  |  |  |  |   |   | 圭 | 歩 |   | 九 |

持駒 角

【解答】

- 94 飛 84 角 23 角 13 玉 14 角成 同玉
- 84 飛 74 角 23 角 13 玉 14 角成 同玉
- 74 飛 64 角 23 角 13 玉 14 角成 同玉
- 64 飛 54 角 23 角 13 玉 14 角成 同玉
- 54 飛 44 角 23 角 13 玉 14 角成 同玉
- 44 飛 24 角 同飛 15 玉 14 飛 同香
- 33 角 16 玉 15 角成 同香 43 角 17 玉
- 16 角成 同香 28 圭 まで 45 手

(詰上り)

|  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |
|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |   |   |   | 歩 | 王 | 一 |
|  |  |  |  |  | 歩 | 歩 | 歩 |   |   | 二 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 三 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 四 |
|  |  |  |  |  |   |   | 桂 |   |   | 五 |
|  |  |  |  |  |   |   | 馬 | 科 | 王 | 六 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |   |   | 七 |
|  |  |  |  |  |   |   | 圭 |   |   | 八 |
|  |  |  |  |  |   |   | 歩 |   |   | 九 |

持駒 なし

【主な変化】

- ・初手 25 角は同玉、23 桂左成、35 角、同飛、16 玉、43 角、25 角、同角成、同銀、38 角、27 角、同角、17 玉、28 角、27 玉、38 成桂、16 玉、27 成桂、同玉、37 飛、16 玉、17 飛まで。
- ・初手 23 角は 13 玉、14 角成、同玉、94 飛、44 角、同飛以下作意に短絡。
- ・3 手目同飛は 15 玉、33 角、16 玉、15 角成、

同香、43 角、17 玉、16 角成、同香、87 飛、47 桂、同飛、同銀、28 成桂まで。

- ・3 手目 25 角は 13 玉、93 飛生、同角、23 桂左成まで。
- ・33 手目 23 角は 13 玉、14 角成、12 玉、13 馬、同角、23 桂左成まで。

【主な紛れ】

- ・2 手目 24 角は 25 角、13 玉、93 飛生以下逃れ。

【作者のコメント】

狙いは角の 6 連合。とは言っても角は 2 枚しかありませんので、連合もどきです。

攻方が 2 枚角を持てば詰む形、というわけで飛の王手に対し受方は角合をして攻方に角を 2 枚持たせようとしています。それに対して攻方は角を 2 枚持たないように、23 角、13 玉、14 角成、同玉で角を消費します。

受方は 24 角合としたいのですが、25 角、13 玉に 3 段目の飛で王手されたときに合駒を渡すと詰まなくなってしまうので、飛を取れるように角を飛にビタ付けで合駒する必要があります。

その結果として、角の 6 連合(もどき)になります。

Worst1.exe で完全検討はできていません。初形 95 飛を 75 飛にした 2 サイクル少ない 33 手詰は完全でした。

【解説】

本局の主題は 6 連続角合。もちろん角は 2 枚しかないので、攻方が合駒で得た角を返却する手を挟んで角合を繰り返す、「バーチャル 6 連続角合」です。

ここでまた、謎が 2 つ出てきます。「なぜ毎回角を捨てるのか？」と「なぜ飛のすぐ横に角合するのか？」です。

詳細は【主な変化】【主な紛れ】をご覧ください。ととして、単純に言えば、毎回角を捨てるのは、角を 2 枚持つと収束に短絡してしまうので、攻方がそれを避けるため。

毎回角を飛のすぐ横に合駒するのは、合駒請求の防止。角を直付けすることにより、攻方が飛を三段目に動かしたときにすぐに取りれるので、合駒をしなくて済むというわけです。

普通詰将棋でも連続合の意味付けとして、上田吉一氏の「オーロラ」のように「紛れ手順で

王手駒を取るため」という原理が使われますが、機構的にはそれと同様です。

ただしこれは最悪詰なので、意味はまったく逆です。普通詰将棋の連続合で王手駒を取るのは詰まないようにするためですが、本局では王手駒を取るによって詰むようにします。

こうして角合→角捨→角取→角合→…の6手一組のサイクルが繰り返されるわけですが、最後にちょっとした破調が待っています。44角合の後、34角合を飛ばしていきなり24角合となるのです。作者もできれば7連合にしたかったと思うのですが、真T氏でも無理だったということは実現困難ということなのでしょう。

【短評】

たくぼんさん

あれこれいじっているうちになんとなく趣向が見えてきた。その後変化を潰していったがよく出来ている。最後34を飛ばす破調に苦笑いです。

☆本局でもたくぼん氏が作者以外の唯一の正解者になりました。最初の解答が誤解で、2回目の解答での正解ですが、それでも立派なものです。

☆本局の機械検討は筆者もやってみたのですが、1サイクル少ない39手までしか完全性を確認できていません。所要時間は約116時間。初形から45手の検討にも挑戦していますが、現在のWorst1.exeの能力では、完全検討は無理かもしれません。



■ 123-7 伊達悠氏作（正解7名）

強欲協力詰 93手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 馬 |   |   |   | 王 |   | 馬 | 科 |   |   | 一 |
| 銀 | 銀 | 香 |   |   | ス |   | 歩 | 歩 |   | 二 |
| 金 |   | 歩 |   |   | 香 |   | 龍 | 香 |   | 三 |
|   |   |   | 香 |   |   |   | 香 | ス |   | 四 |
| 歩 |   | 銀 | 歩 |   |   |   |   | 歩 |   | 五 |
| 香 | 科 | と |   |   | ス |   | 科 | ス |   | 六 |
| 科 |   |   |   |   | と |   |   | 金 |   | 七 |
| と |   |   |   |   |   |   | 銀 | 銀 |   | 八 |
|   | と | と | と |   |   | 歩 |   | 金 |   | 九 |

持駒 なし

【ルール】

•強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

- 42馬 同玉 43龍 同玉 44歩 同玉
- 45歩 同玉 46と 同玉 47歩 同玉
- 58と 同玉 68と 同玉 78と 同玉
- 77と 同玉 86銀 同玉 97と 同玉
- 89桂 96玉 88桂 95玉 94金 同玉
- 93銀成 同玉 92馬 同玉 81銀 同玉
- 72歩成 同玉 63金 同玉 64歩 同玉
- 65歩 同玉 77桂 64玉 76桂 53玉
- 65桂 52玉 64桂 41玉 31香成 同玉
- 21歩成 同玉 12香成 同玉 13香 同玉
- 14歩 同玉 15歩 同玉 16金 同玉
- 17歩 同玉 28金 同玉 27飛 同玉
- 19桂 37玉 38歩 同玉 27銀 37玉
- 26銀 同玉 38桂 35玉 27桂 34玉
- 46桂 43玉 35桂 42玉 54桂 41玉
- 53桂生 51玉 43桂生 まで 93手



(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   | 王 |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   | 桂 | 桂 |   |   |   | 三 |
|   |   |   | 桂 | 桂 |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

【作者のコメント】

〔狙い〕 玉座還元四桂詰

〔経緯〕

ここ数年の念願だった？たくぼんさんの強欲協力シリーズを見ているうちに、研究材料として良さそうだったのが、WFP38号のたくぼんさん作の四桂詰。とりあえず強欲ルールの煙詰研究の最重要ポイントは、収束十数手の逆算にあると思ひ、それに最もふさわしい題材であると判断して手をつけ始めました。

逆算が思うように進まないで困っていた所、突破口になったのが、「2桂ずつに分ければ、8段目・9段目からの桂馬の跳ね出しを非限定なく逆算できる」のではないかという発想。これで逆算に成功できただけでなく、詰上りの4桂を全て受方の駒スタートにするというおまけもつきました。

となると、後は玉座還元まで持って行ければほぼ完璧。実はここ、特に序盤24手に一番時間がかかりました。玉の想定進行ルート(51~58~77地点)の脇に攻方の駒があると、途端にそれを取ってくる余詰が発生してくるため、最終的には1筋の配置にも大幅な変更を加えながらの逆算になりました。もしかすると、左側2桂の逆算はもっと良い方法があったのかもしれませんが、この図が得られた以上は一旦完成として、また別の強欲ルールの可能性を見出していくのを優先しようと思ひます。

【解説】

古来より四桂詰は数多く作られてきました。本作品展でもWFP35-1(たくぼん氏作、強欲協

力詰75手)で全駒配置からの四桂詰が発表されています。

「二枚桂追い」も江戸時代から存在します。例えば久留島喜内「将棋妙案」の第62番や第63番がそうですね。しかし2組の「二枚桂追い」を合体させて「四桂詰」を作り上げるというのは、今まで誰も考えなかった演出でしょう。

強欲ルールで、桂は重要な駒です。王手した桂は玉で取れないからです。桂1枚では王手を続けられませんが、桂を2枚組で使えば、継続して玉を追うことができます。つまり強欲協力詰と二枚桂追いはとても相性が良いのです。

作者はこのアイデアを成立させるだけでは満足せず、玉座還元条件を加えています。これにより、二枚桂追いが左右から中央に向かう対称性が生まれています。「全駒玉座還元四桂詰」という言葉だけを読むと、単なる条件作にしか思えませんが、八・九段目に打った桂が左右から中央に向かって進む手順は、四桂詰完成へ向かう時の期待感を盛り上げます。創作には苦勞したと思いますが、解答者にとっては難渋するところもなく、気持ちよく解けたと思ひます。短評も好評揃いでした。

バラバラの断片が集積して最後に美しい完成形が出来上がるというのは、あぶり出し曲詰の感覚ですが、本局はこれを他の主題に応用しても面白い作品が作れることを示しています。

【短評】

真Tさん

左側から桂が2枚跳ね出し、これはもしかしてと期待が高まる。

右側からも跳ねてきて期待通りの四桂詰。桂を下段から跳ねていくのがいいですね。

たくぼんさん

他人の強欲協力詰を解くのはあまりないので楽しめました。予想外の四桂詰にはビックリ。27飛は好手でした。

桂2枚で追う収束は実は未発表作にあるのですが、左右でやるとはこれは一本取られました。考えたこともなかったですね。

占魚亭さん

玉座還元四桂詰。素晴らしすぎます！

北村太路さん

いやー素晴らしい！！

四桂詰、桂も8、9段目から打って跳ねよう、という貪欲さもいいですね。

玉座からスタートして還元玉、全駒使用、盤面全体使う構成も気持ちいい。

解答難易度が易しく私でも楽しめて有難かったです。

最後うっかり1八から桂を打ってうっかり逃げ道が空いて慌てて解答直したのは内緒。

### 神在月生さん

お疲れさん、孤軍奮闘の後に自座に帰還。

スラスラ進めて気持ち良い。

### 一乗谷酔象さん

心地よく解ける作品。左右に離れた桂対が連係して四桂の着地が決まった。

### はなさかしろうさん

強欲なのに爽快感。楽しかったです。

## ■ 123-8 たくぼん氏作（正解6名）

All-in-Shogi協力詰 13手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|  |   |   |   |  |  |  |  |  |   |
|--|---|---|---|--|--|--|--|--|---|
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 一 |
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 二 |
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 三 |
|  |   |   | 玉 |  |  |  |  |  | 四 |
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 五 |
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 六 |
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 七 |
|  |   |   |   |  |  |  |  |  | 八 |
|  | ス | 王 | 金 |  |  |  |  |  | 九 |

持駒 なし

### 【ルール】

#### • All-in-Shogi

双方とも自分の駒だけでなく相手の駒を動かすこともできる。ただし、双方とも1手前の局面に戻す着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手玉を動かす王手や、相手の持駒を打つ手も可。
- 2) 相手に相手の駒を取らせることはできない。
- 3) 相手の駒に自分の駒を取らせたとき、その駒は相手の持駒となる。

#### 4) 自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

【解答】（※相手駒を動かす手をvで表記）

49金 48v金 58金 68v金 69金 79v金

68v玉 57玉 58歩 67玉 68金 56玉

57金 まで 13手

(詰上り)

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 9 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 8 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 7 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 6 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 5 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 4 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 3 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 2 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 1 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 一 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 二 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 三 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 四 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 五 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 六 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 七 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 八 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 九 |

持駒 なし

### 【作者のコメント】

解いてビックリ（笑）

### 【解説】

玉の周りを金が高速移動。All-in-Shogiなので、双方が結託して金を右から左へ移します。歩を入手した後、攻方の手番で受方の玉を動かす「68v玉」が切り替えポイント。これ以降は、普通の協力詰のような手順になります。

作者のコメントによれば、詰上りは「i」ではなく、逆向きの「!」のようですね。軽い趣向と曲詰が合体した楽しい作品です。

本局の詰上りでは「1手前の局面に戻す着手は禁手」の条件は不要です。これは風変わりな詰上りを生むルールですが、詰上りが狙いでない場合、これがない方が余詰を防ぎやすいことがあるので、「1手前の局面に戻す着手は禁手」という条件を含まない、「可逆 All-in-Shogi」のようなルールがあっても良いと思います。

以前、バレエ用語の「ヴァリアシオン」（ここでは「独舞」と表します）という言葉を紹介しましたが、All-in-Shogiは双方の手番で同じ駒を動かせるので、手番ごとの独舞ではなく、双方の手番を通じた独舞を実現できます。

All-in-Shogiではありませんが、神無太郎氏の

作品で中立駒を使った独舞の実例がありました。

〔参考〕 銀の独舞が主題の作品

神無太郎

ばか詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   |   |
|--|--|--|--|--|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |   |   |   |  | 香 | 一 |
|  |  |  |  |  | 銀 |   | 王 |  |   | 二 |
|  |  |  |  |  |   | 桂 |   |  |   | 三 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   | 四 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   | 五 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   | 六 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   | 七 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   | 八 |
|  |  |  |  |  |   |   |   |  |   | 九 |

持駒 なし

※玉以外すべて中立駒（成れない）  
（詰将棋パラダイス,2018年6月）

31n 銀 32n 銀 23n 銀 12n 銀 11n 銀 12n 銀  
23n 銀 11 玉 12n 香 まで 9 手

この作品は実戦形（中立駒なので「実戦形もどき」と呼ぶべきでしょうか）から、中立銀の7連続着手が出てきます。本局の金は6連続着手ですが、この金は収束でも動き出し、最後に玉の死命を制します。All-In-Shogi や中立駒のルールは、特定の駒の活躍に焦点を当てた作品を作るのに向いていると思います。

【短評】

真Tさん

金が 79 に倍速移動。

どっちの手番か分からなくなります。

たくぼんさん

後半は普通の協力詰って気づいていませんでした（汗）

占魚亭さん

All-in-Shogi らしさ全開の前半が楽しかったです。

変寝夢さん（※無解）

最後5手が ALL-IN らしくない手順なのが不思議。

1手前の再現禁止を利用していないところは更に不思議でした。

北村太路さん

コミカルで楽しい。

ルールに慣れてないからか七郎さんのヒントを見ないと解けなかった。

7手目6八玉みたいな手が浮かばない。

一乗谷酔象さん

金が6連続で動いて不動の玉をすり抜ける。当初 79 とを取って簡単と思ったら何通りの手順もあって 15 手掛かっていることに気づいた。

はなさかしろうさん

序盤のいかにも All-in-Shogi な金の動きから一転、最後は普通に頭金でした。



■ 123-9 馬屋原剛氏作（正解4名）

協力詰 4手（受先）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  |   |
|---|---|--|---|--|--|--|--|--|--|---|
|   | 馬 |  |   |  |  |  |  |  |  | 一 |
| 王 |   |  | 王 |  |  |  |  |  |  | 二 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 三 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 四 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 五 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 六 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 七 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 八 |
|   |   |  |   |  |  |  |  |  |  | 九 |

持駒 なし

※透明駒：攻方1枚、受方1枚

【ルール】

• 受先

受方から指し始める。

【解答】(※透明性を失った駒を括弧内に記述)

43角 61玉 91玉 - X(=83桂) まで 4手

(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 王 | 馬 |   | 王 |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   | X |   |   |   |   | 二 |
|   | 桂 |   |   |   | 馬 |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

※52Xは攻方飛(龍)

【作者のコメント】

線駒をピンすることにより、Xを限定させるのが狙い。

<補足>

初手34角は、43に玉方の透明駒がいた場合、最終手のXが飛(龍)の王手の可能性があり不詰。43角ならば、52飛(龍)はピンして動けないため、最終手は61で取った桂を83に打った手に確定する。

【解説】

ありとあらゆる着手が可能な中で初手43角。なぜ角なのか？ なぜこの位置なのか？ この驚異の限定打の謎を紐解いて行きましょう。

本局は「受先」なので、手番は受方ですが、そのことは忘れて、攻方手番だと考えましょう。受先では、受方がパスをした前提で攻方の手を考え、それに都合の良い受方の手を探るのがコツです。

盤面にいる攻方駒は自玉のみ。もちろんこれは見えている攻方駒が自玉だけという意味なので、王手は可能です。

王手する手段は2つ。透明駒による直接王手か、攻方玉を動かす間接王手です。

直接王手だと透明駒に関する情報はほとんど得られませんが、自玉を動かす間接王手なら、12から52のどこかに透明駒の飛か龍があると

いう情報が得られます。どうやらこちらが本筋っぽいですね。

次にこの開き王手を有効に活かすための受方の初手を考えます。最も有力なのは開き王手を疑似反則にすることです。

攻方玉の行き先に走り駒(飛角香)を利かせておけば、間に駒が挟まっているはずなので、今まで「12から52のどこか」だった透明駒の位置をピンポイントに絞り込むことができます。

でも、本当の狙いは攻方透明駒の位置を絞り込むことではありません。透明駒をピン止めすることです。

攻方玉が開き王手をしたときには、受方の透明駒を取れる可能性があります。攻方の透明駒がピン止めされて動けない状態で、透明駒の着手を行えば、その手が透明駒を打った手で、その前が透明駒を取った手だということを正当化できます。

一般に透明駒の直接王手で玉を詰めるのは難しいことが多いのですが、本局の場合は例外です。二段目は飛(龍)で抑えられているので、透明駒が桂であれば、受けがありません。

攻方玉の行き先候補は5箇所ですが、このうち受方の透明駒が桂であると主張できる箇所が一つだけあります。それが61地点です。

初形で手番でない玉(攻方玉)に王手が掛かっていないためには、61の透明駒は桂でなくてはいけないのです。

これで攻方玉の開き王手は「61王」に決まりました。従って、初手は52飛(龍)をピン止めするように角を打てば良いわけです。

ではなぜ角を43に打つのでしょうか？ 34などではなぜいけないのでしょうか？

それは透明駒の着手指定に関する重要な性質に由来します。

透明駒は一般に位置の指定ができません。でも相手駒を取る時は位置が指定されます。作意のように43に角を打っておけば、52Xが龍であり、43角を取った場合に、それが表面化してしまいます。43角が消えることで、透明駒が動いたことが分かるのです。棋譜で表記すると以下ようになります。

### 43角 61玉 91玉 43X(=龍)

初手 43 角が限定打だった理由はここにあります。仮に角を 34 より遠くに打つと、43 龍とされてもそれが表面化せず、最終手が（透明駒の）桂を打った手だと主張できません。

玉自身が動いてピン止め「されに行く」手順は新鮮です。透明駒に取られることを見越してわざと近くに打つ角の限定打。桂を得るための玉の限定開き王手など、短手数の中に膨大な情報が詰まった、中身が濃い作品だと思います。

せっかくなので、紛れについても考えてみましょう。例えば次のような手順。

#### 93飛 73王 91玉 -X まで 4手？

もし最終手に「82X」と指定できればこの手順でも詰みます。でもこの手順では攻方の飛か龍が二段目にいることはわかって、透明性は失われていません。従って、透明駒が 92 に動いた可能性を除外できず不詰となります。

では次の手順ならどうでしょう？

#### 93飛 73王 82歩 同X まで 4手？

これは最終手に「成」が指定できないので、だめですね。飛か龍かまでは確定しているのに、透明性が完全には失われていないので、詰ますることができない……実にもどかしい話ですが、これが透明駒の難しいところでもあり、面白いところでもあります。

ここで一つ透明駒のルールに関する問題を提起しておきます。

それは「受方の駒台」の扱いです。忘れられがちですが受方の駒台の内容は省略されているだけで、本来は攻方の持駒と同様に、通常駒の内訳の情報が開示されるべきものです。そうすると、受方持駒を含めた初形全体を見ることで透明駒の種類を絞り込めるはずですが。

実は覆面駒でも同様の問題があり（WFP116号、P.38 参照）、そのときは「受方の駒台も覆面で隠されている」と設定したりしました。覆面駒の場合は駒の種類だけが隠されているので「受方覆面持駒の枚数を明示する」というやり方で出題されたこともあったのですが、透明駒でそれが可能かどうかは分かりません。

例えば本局では初手に「43角」と打っていますが、盤上には既に1枚角があるので、事前に「持駒に透明でない角がある」という情報が与えられていないとこの手は指せません。透明駒を使った作品では、受方持駒と攻方持駒で異なる扱いがなされています。

こうした問題に対しては「矛盾が生じたり、透明駒が透明性を失ったりしない限り、受方は持駒の内訳が分からなくとも通常駒を打つことができる」とするなど、ルール設定はいろいろ考えられると思います。透明駒の愛好家同士で相談をして、現在の慣行となるべく矛盾せず、今後の創作にも支障をきたさない、適切なルールが定義されることを望みます。

#### 【短評】

##### 真Tさん

61X=桂限定が狙いだと思いますが、頭2手で52Xをピンするのがうまい作り。

##### たくぼんさん

頭2手で攻方52飛（龍）が決まり、最終手-Xと打ったことから受方の透明駒を取ったことが確定し、初手から61で取った駒は頭が丸い駒。角2枚出ているので桂に確定。しかし初手が16~43で確定できないように思うのですが……。

☆たくぼん氏は43角限定の意味付けが分からないままの解答だったようですが、解答は「43角」になっていたのが正解としました。「運も実力のうち」ですね。

##### 神在月生さん

- ①桂入手～桂打の詰形に気付く
- ②角打による飛固定化に気付く
- ③中合もどき？を回避する角打箇所限定には中々気付かず。

##### はなさかしろうさん

受先は苦手で手が出にくいのですが、本問は実に受先ならではの、楽しく悩みました。

■ 123-10 馬屋原剛氏作（正解4名）

協力詰5手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   | 王 |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 桂 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   | 王 |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   | 角 |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 角

※透明駒：攻方0枚、受方1枚

【解答】

31角 12玉 68玉 11玉 -X まで5手

(詰上り)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|   |   |   |   |   |   | 角 |   | 王 | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   | X | X | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   | 桂 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   | 角 | 王 |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 九 |

持駒 なし

※最終手は22銀、12銀、12香のいずれか

【作者のコメント】

禁じられた遊び手筋をやってみたかった。

<補足>

3手目に取った駒を5手目に打っているが、68であれば、桂(成桂)を取った可能性がない。

【解説】

透明駒を取って透明駒で詰ます作品。

攻方は透明駒を持っていないので、これは3手目の開き王手の時に入手したものです。

透明駒の種類はほとんど何でも構いません。歩は打歩詰禁止のルールから自動的に排除されます。角は品切れ。飛金銀香は王手ができれば

自動的に詰みです。

でも桂だけは困ります。桂が角道を止めるので、12玉の逃げ道が残るからです。

ここで「八段目には桂は置けない」ことに気付けば問題はほぼ解決。攻方玉で開き王手するとき、八段目に行けば良いのです。

でも油断は禁物です。八段目ならどこでも良いわけではありません。もし3手目に58玉とすると、最終手に対し12玉と応じられ「八段目に桂がないとなぜ思った？」と指摘されてしまいます。確かに生の桂なら58に居られませんが、成桂ならば58に居られます。

ここで初手のぼんやりした31角が、案外重要な手だったことが分かります。これが王手放置でないことから、68に居るのが成桂ではなく、取った透明駒が桂である可能性も消えます。(ついでに飛金や他の成駒である可能性も消えますが、作意には関係ありません。)

本局は前局と同様、攻方玉の開き王手で受方の透明駒を取る作品ですが、前局は桂を取るため工夫する作品で、本局は桂を取らないために工夫する作品です。狙いが対照的な作品を同時に発表するのは面白い試みだと思います。

【短評】

真Tさん

68Xの(一部)限定が面白い。

たくぼんさん

取った駒が桂(成桂)ではないことを証明するには68じゃないとダメということか。面白い。

神在月生さん

取った透明駒が、桂でないことはきちんと説明するが、歩でないことは有無を言わせない、といった感。(笑)

☆「歩だと打歩詰なので歩ではない」というのは確かに妙な感じですが、何も工夫しなくても打歩詰が回避できるとは!

はなさかしろうさん

3手目は66玉で桂を取るのかと思いましたが、桂こそ取ってはいけない駒だったんですね。



■ 123-11 変寝夢氏作 (正解 8 名)

リパブリカン協力自玉詰 16 手

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 王 |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 八 |
|   |   |   |   |   |   |   | 歩 | 歩 |   | 九 |

攻方持駒 飛  
受方持駒 なし

【ルール】

・リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する。
  - 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
  - 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。
- 参照：WFP92 号「リパブリカン詰の紹介」

【解答】

99 飛 82 玉 89 飛 73 玉 79 飛 64 玉  
69 飛 55 玉 59 飛 46 玉 49 飛 37 玉  
39 飛 28 玉 29 飛 17 玉(+19 王) まで 16 手

(詰上り)

|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 一 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 三 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 六 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   | 王 | 七 |
|  |   |   |   |   |   |   |   |   | 歩 | 八 |
|  |   |   |   |   |   |   | 飛 | 王 |   | 九 |

攻方持駒 なし  
受方持駒 歩

【作者のコメント】

ずばりくるくるです。これだけは解けた、という方がいたらいいのですが。

【解説】

リパブリカンルールを使った軽趣向。でも、最も注目すべきはその詰上り。形だけ見るとまるで打歩詰ですね。

攻方玉を詰めているのは 18 歩ですが、歩は打ったものではなく、最初から追いてある駒なので、打歩詰ではありません。勝手に玉の方が歩の前に飛び込んで来たのです。動いてないので突歩詰でもなく、しいて言うなら「置歩詰」でしょうか。

飛は詰上りで退路封鎖の役割を果たすため、九段目に最遠打。以降は段を維持しつつ、玉を 17 へ誘導します。28 歩は玉の移動経路を限定するための配置。飛の打場所や玉の移動経路はいろいろありそうですが、詰上りを先に考えれば迷うことはないでしょう。

【短評】

真Tさん

詰上がりが見えるので一直線。でも楽しめます。

たくぼんさん

歩で詰めるとはユーモアがあります。

**占魚亭さん**

打歩ではないので合法局面、という理解でいいのでしょうか？

**北村太路さん**

解くより書く方が疲れるタイプの問題。

**一乗谷酔象さん**

打歩でも突歩でもない置歩の詰み。

**はなさかしろうさん**

飛はいろいろありそうで、結局寄るしかないんですね。

■ 123-12 神在月生氏作（正解4名）

協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |
|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 一 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 二 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 三 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 四 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 五 |
|  |  |  |  |  |  | 糸 | 科 |   | 六 |
|  |  |  |  |  |  | 銀 |   | 科 | 七 |
|  |  |  |  |  |  |   |   | 玉 | 八 |
|  |  |  |  |  |  |   |   | 桂 | 九 |

持駒 飛金

※透明駒：攻方0枚、受方2枚

【解答】（※透明性を失った駒を括弧内に記述）

98 飛 19 玉 99 飛 18 玉 19 飛 同 X (=桂成)  
28 金 まで 7 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

|  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |
|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 一 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 二 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 三 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 四 |
|  |  |  |  |  |  |   |   |   | 五 |
|  |  |  |  |  |  | 糸 | 科 |   | 六 |
|  |  |  |  |  |  | 銀 |   | 科 | 七 |
|  |  |  |  |  |  |   | 金 | 玉 | 八 |
|  |  |  |  |  |  |   |   | 手 | 九 |

持駒 なし

【作者のコメント】

遠飛の意味は、相馬慎一手筋として既出のものですが、転回により八九の二段に利かすのが些かの新味かなと。

それよりも、5 手目の飛遠移動捨てに短篇詰将棋の風情が感じられるかも。

まあ、大きな主張点はないのですが、透明駒に慣れていない方にも容易に解いていただいて、最後にスッキリとしていただければと思い、投稿します。

<紛れ>

検討にあたっては、透明駒の先生にもご支援いただきました。

19 退路封鎖後に 28 金迄、の詰みを防ぐためには、

①桂が残っていれば、28 金を防ぐ 16 桂の存在が可能。

②最初から 27 地点が空なら、28 金を防ぐ 27 歩等の存在が可能。

36 歩は、98 飛、19 玉、99 飛(透明角取り)、18 玉、X(36 角)、27 合、19 金迄を防止。

98 飛、38 飛、同飛、19 玉、18 飛打、29 玉は、19・28・39 に玉方透明駒利き可能。

98 飛、38 桂成、同飛、29 玉、28 飛、19 玉は、18 に玉方透明駒利き可能。

28 飛、19 玉、29 飛、18 玉、19 金、同 X(桂成)、28 飛は、残り透明駒で同 X 可。

【解説】

隠れた守備駒を排除するため、飛が八面六臂の活躍を見せる作品。

何もなければ「28 飛 19 玉 18 金」のような手で簡単に詰む形ですが、受方には透明駒の守備があります。守備駒が 27 や 29 から忽然と現れ 18 金を取ってしまいます。

では「28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 19 飛 同 X 28 金」はどうでしょう？ Xは桂成に決まるので、成桂に 28 金を取られる心配はありません。また、桂はすべて使い切ってしまったので、16 から透明な桂が跳んで来る心配もありません。

でもこれではまだ充分ではないのです。この手順では左辺から透明な飛（または龍）が飛んで来て 28 金を取ってしまいます。

これを防ぐのが初手 98 飛の最遠打です。これには「飛と玉の間に駒がない」ことを証明す



る働きもあるのですが、盤の端から飛を打つことで、左辺に守備駒がないことを証明するのが真の目的だったのです。盤の端には「その向こう」は存在しない——当たり前のことに思えますが、そんな忘れられがちな当たり前のことを思い出させてくれるのが、透明駒というルールです。

こうして守備駒がどこからともなく現れる可能性を排除する目的で遠打した飛を9筋から1筋までぶん回す豪快な手順が現れました。8手を掛けて攻方の桂を受方の桂（成桂）に化けさせて1手詰という構成も良いですね。解いて気持ちの良い作品だったと思います。

今回の作品展は桂が鍵となる作品が目立ちますが、本局も桂を品切れにする手段を問う作品でした。まったくの偶然ですが、面白い巡り合わせだと思います。

#### 【短評】

#### 真Tさん

6手目は桂しかない。なるほど。

#### たくぼんさん

最初は4手目+99で行けると思ったが9筋の飛、香がありました。

19迄行くのがすばらしい。

#### はなさかしろうさん

掃き出すような19飛が気持ち良かったのですが、36の歩の役割がわからずじまいで一抔の不安が。解説を楽しみにしています。

☆作者ご自身の解説にある通り36歩は余詰防止のための配置。3手目99飛のとき攻方が（透明な）角を入手する紛れを防ぐものです。透明駒は強力な守備駒ですが、相手に渡る可能性もあるので油断できませんね。



#### 【総評】

#### たくぼんさん

何とか全題解答できましたが、果たして・・・

#### 変寝夢さん

透明駒が筋さえも見えなくなっている。くるくる的な趣向詰を誰か作って欲しくないかなあ？

#### 神在月生さん

ルールが理解できているのは、半分くらい（泣）

☆神無太郎氏から告知があると思いますが、過去のフェアリーの資産をまとめ、これからのフェアリー愛好家のために残しておこうという「伝承 ～ A Young Person's Guide to Fairy Tsume Shogi」が、いよいよ公開となります。この名称はブリテンの「青少年のための管弦楽入門」(The Young Person's Guide to the Orchestra) を彷彿とさせますが、例えばキング・クリムゾンのコンピレーションアルバム「新世代への啓示」(A Young Person's Guide to King Crimson) のように、この型の表題は英米で結構使われるので、直接的な元ネタはブリテンではないかもしれません。名称はともかく、この「伝承」には短期間ではとても消化しきれないような大量の「歴史」が詰まっています。残暑も収まってきたことですし、詰将棋に浸るには良い季節でしょう。これまでフェアリー愛好家たちが通ってきた道を振り返り、これから続く未来への道に思いを馳せてください。

以上



**【追記】 123-9 解説の誤り**

WFP123-9 (馬屋原剛氏作) の解説に誤りがあり、作者ご自身より以下のご指摘をいただきました。

「仮に角を 34 より遠くに打つと、43 龍とされてもそれが表面化せず、最終手が（透明駒の）桂を打った手だと主張できません。」とありますが、透明駒の着手は必ず王手なので、4 手目の透明駒の着手が 43 龍であることはありえません。

まったくもってご指摘どおりで、汗顔の至りです。角を 43 に打つ本当の理由は、34 より遠くに打つと、その間に受方の透明駒があり（つまり 2 手目が駒取りではなく）、龍のピン止めが掛かっていない可能性が残るからです。

作者からは初手 34 角の紛れが不詰となる例図も示していただきましたので、以下に紹介します。

例) 「34 角 61 玉 91 玉 - X」で不詰となる例

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| 一 | 王 | 馬 |   | 王 |   |   |   |   |   |  |
| 二 |   | 龍 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 三 |   |   |   |   |   | 歩 |   |   |   |  |
| 四 |   |   |   |   |   |   | 馬 |   |   |  |
| 五 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 六 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 七 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 八 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 九 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |

持駒 なし

ということで、初手 43 角限定の正しい理由は上記の通りです。作者には余計なお手間を取らせて申し訳ありません。速やかなご指摘、感謝致します。

(2020 年 9 月 20 日追記 神無七郎)

## 推理将棋第132回出題

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第132回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2020年10月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題名 は 「推理将棋第132回解答」 でお願ひします。

### 推理将棋第132回出題 担当 Pontamon

今月は予告通り9手特集です。

作者6名による6作品の出題が実現できました。投稿、ありがとうございます。

9手だと難易度が下がるので5~6作を出題予定と告知していましたが、実際には難易度は低くなりませんでしたし、4問分の作品もありハードな月になりそうです。1題でも解けたら解答送付をお願いします。

初級~上級は担当が解いた時の感触ですので当てにはなりません。

#### ■本出題

本出題

#### 132-1 初級 Pontamon 作 攻めにも逃げにも遠い金 9手

「○手目は34金」なら91問題ですが、どちらが指した手なのか分からない条件です。

#### 132-2 初級 けいたん 作 居角なの？ 9手

最終手で88の角が22へ動きますが、その駒のサポートはどうなっているのでしょうか。

#### 132-3 中級 ミニベロ 作 金頭にいた角 9手

金は角頭や角尻へ動けないので、角筋である金頭へ角の手が指されたこととなります。

#### 132-4 中級 NAO 作 高飛車くん 9手

高飛車(5段目の飛着手)はどちらが指した手なのか推理しましょう。

#### 132-5 上級 ぬ 作 何筋の歩成？ 9手

初登場の「ぬ」さんからの出題です。4手

目に4筋へ着手できる駒は6種7枚。

#### 132-6 上級 渡辺秀行 作 嘘吐き94問題 9手

93問題を4回解くこととなりますが、解けないのか不詰なのかの判断で迷うかも。

#### ■締め切り前ヒント (10月3日頃 Pontamon)

#### 132-1 初級 Pontamon 作 攻めにも逃げにも遠い金 9手

「9手で詰んだ対局の話聞いたんだけど、手順がよくわからないんだ」

「どんな対局だったって？」

「34金の着手があったらしいけど、指したのは先手なのか後手なのか聞いてなくて…」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・34金の着手があった

#### 132-2 初級 けいたん 作 居角なの？ 9手

「9手で詰みか。どんな将棋だったの？」

「22への着手で詰めた88の角は打った駒ではないんだよね」

「ほんと？」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・22への着手で詰めた88の角は打った駒ではない

#### 132-3 中級 ミニベロ 作 金頭にいた角 9手

「隣の将棋だけど、角が最終9手目に不成りと動いて詰んだね」

「それ、さっき金頭にいた角だよ」

「後手の着手にも問題あるね。駒ランク下からしか指さないんだから」

「金銀は動くことも取られることもなかったね」

「うん、釘付けだったね。財布の金はすぐに出て行くけどね」

(条件)

- ・9手詰
- ・金頭にいたことがある角が、最終手で不成りと動いた
- ・後手は駒ランク下から着手
- ・金銀釘付け

※駒ランクは下から順に、歩、香、桂、銀、金、と、成香、成桂、成銀、角、飛、馬、龍、玉 とします。

\*\*\*\*\*

**1 3 2-4 中級 NAO 作**  
**高飛車くん 9手**

「見たかい。俺の5段飛車」  
「得意の高飛車戦法だね。たったの9手で詰みか。5段目の飛車より後の4筋の角が勝負を分けたね」

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・5段目の飛の手より後に4筋の角の手を指した

\*\*\*\*\*

**1 3 1-5 上級 む 作**  
**何筋の歩成? 9手**

「この歩を成る手で9手で詰みだ」  
「(6筋の駒を指さして)この駒を4手目に4筋に動かしたのがまずかったのかなあ？」

(条件)

- ・9手目の歩成で詰み
- ・4手目に4筋に着手した(現実の将棋でいうところの物理的な)駒が終局時に6筋にいた

\*\*\*\*\*

**1 3 1-6 上級 渡辺秀行 作**  
**嘘吐き 94 問題 9手**

(条件)

- ・9手で詰み
  - ・以下のうち3つが正しく1つが嘘
- a. 2手目 62 飛  
b. 3手目 33 角生  
c. 6手目 42 玉

d. 9手目同角成

※嘘の条件を解答するのではなく、嘘条件以外の3つの条件を満たす手順を解答してください。

# 推理将棋第130回出題解説

推理将棋第130回解説 担当 Pontamon

第130回は上級問題が難しかったようで130-3の正解者は作者を含めて5名で、全体の解答者数も12名と少な目でした。

1題でも解けたら是非解答を送付してください。感想だけでも歓迎です。

\*\*\*\*\*

## 130-1 初級 Pontamon 作 珍しい28銀 8手

「初手は7筋の普通の手だったのに、たった8手で詰まされたよ」

「8手とは早かったね。何か新手はあったのかな？」

「そうだね、28銀は珍しい手かな」

(条件)

- ・8手で詰み
- ・初手は7筋
- ・28銀があった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

初心者向けの簡単8手です。129-2でも28地点の銀着手があったので珍しいとは言えない？

締め切り前ヒント

先手の28銀はトドメの金の打ち場所を作る協力手。

\*\*\*\*\*

推理将棋130-1 解答

▲78飛、△34歩、▲58玉、△77角不成、▲59金右、△同角不成、▲28銀、△48金 まで8手

(条件)

- ・8手で詰み
- ・初手は7筋 (初手▲78飛)
- ・28銀があった (7手目▲28銀)

詰上り図

後手の持駒：歩

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| 一 | 皇 | 科 | 爵 | 王 | 王 | 爵 | 科 | 皇 |   |  |
| 二 |   | 飛 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 三 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 |   |  |
| 四 |   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   |  |
| 五 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 六 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 七 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |  |
| 八 |   | 角 | 飛 |   | 玉 | 王 |   | 銀 |   |  |
| 九 | 香 | 桂 | 銀 | 金 | 馬 |   |   | 桂 | 香 |  |

持駒なし

後手が28銀の手を指すのは難しいはず。飛が居ると先手も28銀は指せないのの後手が飛を取って、一間龍で詰ましてみたのが参考1図です。

参考1図

後手の持駒：なし

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| 一 | 皇 | 科 | 爵 | 王 | 王 | 爵 | 科 | 皇 |   |  |
| 二 |   | 飛 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 三 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 |   |  |
| 四 |   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   |  |
| 五 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 六 |   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   |  |
| 七 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 銀 | 歩 | 歩 |  |
| 八 |   | 角 |   | 金 | 金 |   |   |   |   |  |
| 九 | 香 | 桂 | 銀 |   | 玉 | 馬 |   | 桂 | 香 |  |

持駒角

初手から▲68金、△34歩、▲36歩、△55角、▲58金、△28角不成、▲同銀、△38飛、▲37銀、△39飛成 で一間龍で詰みなのですが、28地点への銀着手は▲28銀ではなく▲同銀でした。しかも初手は7筋なのに6筋だし、手数も10手なのでオーバーしていてボロボロ。

では、初手76歩で角道を通す協力の後に▲18飛、▲28銀で飛の横利きを止める協力。後手は角を取って2枚の角で先手玉を仕留めてみたのが参考2図です。今度は確かに詰んでいる

し、▲28 銀の棋譜にもなっていますが、手数オーバーの10手なのは同じでした。

参考2図

後手の持駒：金

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| 一 | 香 | 桂 | 銀 | 玉 | 玉 | 銀 | 桂 | 香 |   |  |
| 二 |   | 飛 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 三 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |  |
| 四 |   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   |  |
| 五 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 六 |   | 歩 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 七 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |  |
| 八 |   |   |   | 金 | 金 |   | 銀 | 飛 |   |  |
| 九 | 香 | 桂 | 銀 | 玉 | 玉 |   | 桂 | 香 |   |  |

持駒 なし

参考2図の手順：▲76歩、△34歩、▲18飛、△88角成、▲78金、△58角、▲28銀、△78馬、▲48金、△69馬 ので10手

初手が7筋とのことなので、歩突きでないとしたら▲28銀を実現させるために移動しなければいけない飛を初手で▲78飛としてみます。後手は当然の△34歩から角が出てきます。先手は3手目に▲28銀を指せます。7筋の歩は突いていないので△77角成くらいになりますが、これが王手なので68地点へ金銀飛のどちらかを移動して合い駒にするか玉が逃げることになります。仮に移動合いした場合は後手は△同馬しか攻める手立てがないのでこれがまた王手なので先手は▲48玉。後手は68地点の馬と金銀飛のどちらかの持ち駒ですが、先手の両金が残ったままなので詰みがありません。手を戻して、△77角成の時に合い駒をしなくて玉が逃げるとどうでしょう？77の馬は99の香を取るくらいしか攻め駒の補充ができません。

先手の両金が残っては駄目で、後手は何か駒を補充する必要があります。これらを解決する手順は、3手目に▲28銀を指さずに先に玉が逃げておく▲58玉に△77角不成として、先手のどちらかの金を59へ寄って△同角不成で金を補充します。先手はようやく▲28銀を指せますが、この手は条件クリアとともに48への利きが無くなる手になっています。したがって5手目は▲59金右として右金を差し出しておく

と8手目に△48金で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

はなさかしろうさん「7手の場合82銀は指せないで、飛を退かすことになりませんが…28銀は5通りありますがいずれも7手目の着手で、本譜と違う詰め上がりがひとつだけあるようです。」

■是非、その手順の8手作の投稿を！ 初級作品が手薄なので131回は担当から2題の出題になっています。

ミニベロさん「初手7筋は、手順前後や飛車の行き場所など、いろいろ限定の旨い条件付け。」

■初手76歩を考えた方は居るのかな。初手飛だと▲18飛が余詰になってしまいます。

RINTAROさん「一目とはいかなかった。」

■やること（飛車をよけて▲28銀）は分かっているけど手順が少しややこしい。

ほっとさん「初手はまあ普通なのかな。」

■振り飛車党でも初手▲78飛は少ない？

占魚亭さん「詰み形が浮かぶまで大分時間がかかりました。暑さのせいかな？」

■手待ちかと思う▲28銀が協力手だったので

けいたんさん「すぐ28銀を指したくなってしまった。」

■結局、▲28銀を指せるのは先手の最終手の7手目まで待つしかありませんでした。

NAOさん「銀を動かすため28を空ける初手78飛。後は自然に詰形に導かれる。」

飯山修さん「8手で28銀はさすがに先手の指手。となると飛車の移動が必須なので初手は78飛に決まる」

山下誠さん「7八飛と2八銀をセットにすれば考えやすい問題でした。」

諏訪冬葉さん「28銀のための初手飛車が見えたのですぐ解けました。」

■まとめでのコメントですみません。78に飛がいるので、角の進入路とは反対側の48金で仕留めるまでの流れがベテランには即見えてしましますね。

原岡望さん「ちょっと意外でした。」

■意外だったのは何だろう。▲28銀は条件クリアするだけの待ち手の予想だったのかな？

\*\*\*\*\*

正解：12名

はなさかしろうさん ミニベロさん  
RINTAROさん ほっとさん 占魚亭さん  
けいたんさん NAOさん 飯山修さん  
山下誠さん 諏訪冬葉さん 神在月生さん  
原岡望さん

\*\*\*\*\*

130-2 中級 けいたん 作  
56馬まで 10手

「56馬まで10手で詰みか」  
「初手は6筋の着手だったな」  
「不成はなかったね」

(条件)

- ・10手目の56馬で詰み
- ・初手は6筋
- ・不成なし

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

最終手の56馬が明かされていますが、何処で成った馬でしょうか？

締め切り前ヒント

角を88で成って、その馬を2手使って56へ移動します。

\*\*\*\*\*

推理将棋 130-2 解答 担当 Pontamon

▲68玉、△34歩、▲76歩、△88角成、▲56

歩、△45角、▲57玉、△66馬、▲46玉、△56馬まで10手

(条件)

- ・10手目の56馬で詰み(10手目△56馬)
- ・初手は6筋(初手▲68玉)
- ・不成なし(4手目△88角成)

詰上り図

後手の持駒：歩

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 皇 | 科 | 爵 | 王 | 王 | 爵 | 科 | 皇 |   | 一 |
|   | 歩 |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
| 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 三 |
|   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   | 四 |
|   |   |   |   | 歩 |   |   |   |   | 五 |
|   |   | 歩 |   | 歩 | 玉 |   |   |   | 六 |
| 歩 | 歩 |   | 歩 |   | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 七 |
|   |   |   |   |   |   |   | 飛 |   | 八 |
| 香 | 桂 | 銀 | 金 |   | 金 | 銀 | 桂 | 香 | 九 |

持駒なし

最終手が△56馬だと判明しているので詰み形から考えてみます。

参考1図

後手の持駒：歩3

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 皇 | 科 | 爵 | 王 | 王 | 爵 | 科 | 皇 |   | 一 |
|   | 歩 |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
| 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 三 |
|   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   | 四 |
|   |   |   |   | 歩 | 歩 |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   | 歩 | 歩 |   |   |   | 六 |
| 歩 | 歩 |   |   |   |   | 歩 | 歩 | 歩 | 七 |
|   |   |   |   |   | 角 | 玉 | 飛 |   | 八 |
| 香 | 桂 | 銀 | 金 |   | 金 | 銀 | 桂 | 香 | 九 |

持駒なし

参考1図は△56馬の馬単騎詰みの形ですが、手数は12手掛かっていますし初手は6筋にはなっていません。先手駒の配置だけを考えてみると、後手が77の歩と57の歩を取って協力してくれると、先手は玉移動2手、66角からの

48 角の角移動 2 手と 46 歩の計 5 手で行けそうな気がしますが、後手の協力手とのタイミングが合わず、やはり 12 手掛かってしまいます。

参考 1 図：▲48 玉、△34 歩、▲46 歩、△77 角成、▲38 玉、△67 馬、▲77 角、△57 馬、▲59 角、△66 馬、▲48 角、△56 馬 まで 12 手

後手が△56 馬を実現するための要件を考えてみると、大きく分けて 2 種類。角道を開ける△34 歩、角取り、角打ち、角成、△56 馬の順、もしくは、角道を開ける△34 歩、角成、馬移動で角筋を変える、△56 馬の 4 手の順になります。前者だと、角打ちをする角の入手が 4 手目になるので、初手から▲6 筋、△34 歩、▲76 歩、△88 角成/不成の後、後手は角打ちからの角成で馬を作って最終手を△56 馬とする手順になりますが、88 の馬（角）は 56 地点へ利いていないので△56 馬は馬単騎でなければいけません。馬単騎は手数オーバーだったので、後者の順になりそうです。

後者だと、角成の時か馬移動の時に攻め駒の入手が可能なので、最終手の△56 馬を支えるために取った駒を打って支えにする着手に残りの 1 手を振り分けることができそうです。参考 2 図は、△56 馬の最終手に向けた筋に移動する△89 馬で取った桂を 56 へ利かすために△44 桂としてみたものです。

参考 2 図

後手の持駒：角歩

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| 一 | 香 | 桂 | 銀 | 金 | 玉 | 金 | 銀 | 桂 | 香 |  |
| 二 |   | 飛 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 三 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 |  |
| 四 |   |   |   |   |   | 桂 | 歩 |   |   |  |
| 五 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 六 |   |   | 歩 | 歩 | 金 |   |   |   |   |  |
| 七 | 歩 | 歩 |   |   | 玉 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |  |
| 八 |   |   |   |   |   |   |   | 飛 |   |  |
| 九 | 香 |   | 銀 | 金 |   | 金 | 銀 | 桂 | 香 |  |

持駒 なし

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲56 歩、△88 角成、▲68 玉、△89 馬、▲57 玉、△44 桂、

▲66 歩、△56 馬 まで 10 手

後手の手は予定通り実現することができましたが、玉の退路が 8 段目に 3 箇所もあって失敗です。しかも初手が 6 筋も実現できていません。となると、△56 馬を支える駒は△88 角成で取った角を使うことになりそうです。

最終手の△56 馬は先手玉の初期配置と離れているので、馬単騎や 7 段目玉を考えましたが手数オーバーや退路封鎖が間に合いませんでした。困った時は空き王手や両王手を考えるのですが、本問ではそれも無理のようです。自陣玉が駄目なら残るは中段玉です。と言っても玉位置は 56 の馬の利きの範囲内になります。中段玉を目指すなら、初手 6 筋は▲68 玉でほぼ間違いないでしょう。最終手の△56 馬を▲同歩とできないようにするために歩突きは 5 筋の△56 歩。残り 3 手で行けて△56 馬の利きの範囲となると、玉地点候補は 45、55、65、46、66 の 5 地点。しかし、後手の△56 馬を支えるための角を取らせるには▲76 歩の協力が必要なので、玉は 46 か 66 の 6 段目までしか行くことができません。

初手から、▲68 玉、△34 歩、▲76 歩、△88 角成、▲56 歩 の後、先手は 57 玉経由で△46 玉か△66 玉になりますが後手の残り 3 手は馬移動 2 手と角打ちになります。56 へ行ける筋の 78 や 89 へ移動しても 67 の歩が邪魔なので 56 へ行くことができません。そうすると、△55 馬か△66 馬経由で△56 馬の手順になります。なので先手玉を△66 玉とすることはできず、△46 玉が玉位置に確定します。56 に馬が居るので玉は 57 へは戻れません。35 地点は後手の 34 の歩が利いているので行けませんが、36 地点だけが退路として残りそうです。その 36 の玉退路を防ぐとともに 56 の馬を支える△45 角が一石二鳥の好手です。玉移動と△66 馬のタイミングからこの△45 角は 6 手目になり、6 手目から△45 角、▲57 玉。次の後手の手は△66 馬か△55 馬ですが、△55 馬を指すと▲46 玉ができないので、8 手目から△66 馬、▲46 玉、△56 馬で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)



けいたんさん（作者）「わりと綺麗な詰上がり」

はなさかしろうさん「10手目 56馬での詰みはいろいろあるけれど、初手6筋が素晴らしい限定でした。76歩が絶妙に利く詰め上がりが素敵です。」

■先手だけで見ると初手、3手目、5手目の3手の6通りの手順前後が可能な順ですが、▲76歩の協力手を3手目までに指す必要があるので初手6筋が効率のいい限定でした。

ミニベロさん「これは見えない。56馬と初手6筋がリンクしない。この詰め上がりはあまり見ないし、34歩もお役に立って佳作だと思う。」

■角・馬・玉が8段目と9段目ならよくあるパターンなのですが。

RINTAROさん「何故か66馬が見えなかった。」

■広そうで狭い中段なので攻め手順が予想と違っていると見えにくくなりますね。

ほっとさん「最終手がぴったり間に合って納得。」

■先後の寸分変わらない協力での詰み上がりが推理将棋の魅力ですね。

占魚亭さん「なぜか66馬が見えず苦戦。」

■△55馬を考えて駄目だとわかると△66馬も一緒だと思いがち。

NAOさん「際どいタイミングで角馬で玉をガッチリ抱える筋。合効かずの詰みが"初手6筋"で消えているが、結構その筋も追わされた。ヒント待ちだったが、実質ヒントは増えなかった。」

■危ない危ない、馬単騎は読んでなかった。ヒントは、取った角を打って成って移動ではないことを示して、残りの1手の角打ちが見えるはずと想定してました。

飯山修さん「57経由の王様の通路指定となる初手6筋条件が余詰消しと見事にマッチ」

■初手6筋の条件が手順前後を消しています。

山下誠さん「5六馬の相棒を考えるのに一苦労でした。」

■相棒は取った角なのは想像できるけど、打つ場所とタイミングがいつもと違うので悩まされます。

諏訪冬葉さん「先に45角ではなく44桂がある詰上図を思いついたけど、67歩を動かす暇がなく断念しました。馬が89から56まで動いて詰んだらカッコいいと思ったのに・・・」

■玉が46まで出て来ていれば、36の退路も塞ぐ△44桂がピッタリだったのですが手数が足りませんでした。

原岡望さん「これも変わった詰上がり」

■中段玉の場合の最終手では、玉が中段へ出て来た地点へ戻ることを封印する角や馬の手が多いですが、本間は珍しい詰み上がりでした。

\*\*\*\*\*

正解：12名

はなさかしろうさん ミニベロさん  
RINTAROさん ほっとさん 占魚亭さん  
けいたんさん NAOさん 飯山修さん  
山下誠さん 諏訪冬葉さん 神在月生さん  
原岡望さん

\*\*\*\*\*



130-3 上級 ミニペロ 作

三捨利警部の推理 (4手前のアリバイ・オマージュ) 12手

「警部、またまた4手前のアリバイ事件です。  
 8手目と12手目は、同一駒を同一地点に着手されています」  
 「またかね。もう4手前のアリバイは、アリバイとして認められないと判例も出ているんだよ」  
 「ところが今度は、11手目に玉が動いているんです」  
 「なに！それは不思議だ。  
 それなら幻の13手目に、直前にいた地点に逃げられるはずだが・・・」  
 「当然成る手はありません。いったいどうなっているんでしょうか」  
 「もしかしたら、あの手を使ったのかもしれない」

三捨利警部は何か閃いたのでしょうか。  
 皆さんも一緒に、このカラクリを解いてくださいね。

(条件)

- ・駒成なく12手で詰み
- ・8手目と12手目は、同一駒を同一地点に着手
- ・11手目は、「玉」

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

「4手前のアリバイ」条件の習作。127-3 結果稿での担当コメントは偽証だと証明されました。

締め切り前ヒント

9手目も玉の手。10手目は王手ではない。

\*\*\*\*\*

推理将棋130-3 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲68玉、△37飛不成、▲33歩、△38飛不成、▲77玉、△33飛不成、▲88玉、△38飛不成 まで12手

(条件)

- ・駒成なく12手で詰み
- ・8手目と12手目は、同一駒を同一地点に着手 (8手目△38飛不成、12手目△38飛不成)
- ・11手目は、「玉」 (11手目▲88玉)

詰上り図

後手の持駒：角歩2

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 皇 | 科 | 爵 | 王 | 王 | 爵 | 科 | 皇 |   | 一 |
|   |   |   |   |   |   |   | 馬 |   | 二 |
| 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 三 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   | 歩 |   |   |   |   |   |   | 六 |
| 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 七 |
|   | 玉 |   |   |   |   | 遊 | 飛 |   | 八 |
| 香 | 桂 | 銀 | 金 |   | 金 | 銀 | 桂 | 香 | 九 |

持駒 なし

11手目に先手玉が動いて12手目で王手を掛けられた際、11手目の先手玉が動く前の地点へ戻れないのはどのような場合なのかを考えてみると、10手目に王手を掛けられた時に王手を掛けた駒を取らずに玉が逃げた状況であれば12手目の王手で玉が元の位置へ戻ることはできません。そこは王手が掛かっているはずだからです。

ところが本問の条件では、8手目と12手目が同一地点の同一駒による着手なので、10手目にはその駒が移動する手、つまり、8手目、10手目、12手目は全て同じ駒の着手になります。10手目に王手を掛けた駒は12手目に移動しているので玉が戻っても王手にはなっていないはずですが、玉が戻れないのであれば、駒が12手目地点へ動いたために空き王手になっていると考えられます。そこで、角と飛で両王手を掛ける手順を考えてみたのが参考1図です。

参考1図

後手の持駒：金

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |   |
| 皇 | 科 | 爵 | 王 | 王 | 爵 | 科 | 皇 |   | 一 |
|   | 飛 |   |   |   |   |   |   |   | 二 |
| 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 | 三 |
|   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   | 四 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 五 |
|   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   | 六 |
| 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 馬 | 歩 | 歩 | 七 |
|   | 角 |   |   | 玉 | 遊 |   |   |   | 八 |
| 香 | 桂 | 銀 | 金 |   |   | 銀 | 桂 | 香 | 九 |

持駒 なし

参考1図：▲36歩、△34歩、▲38飛、△55角、▲37飛、△同角不成、▲58玉、△48飛、▲59玉、△49飛不成、▲58玉、△48飛不成 まで12手

10手目は両王手になっていますが、玉の退路があるため▲58玉と上がることができ、△48飛不成で追いかけて王手すると▲59玉へ戻り、△49飛不成で再度両王手を掛けてもかわされず。王手の千日手は後手の負けになってしまいます。

両王手は10手目ではなく、最終手で逃げ場のない両王手を掛ける必要があるようです。

両王手の最短手順である9手の両王手の形を使ってみたのが参考2図です。

参考2図

後手の持駒：銀

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
|   | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| 一 | 香 | 桂 | 銀 | 金 | 玉 | 金 | 銀 | 桂 | 香 |  |
| 二 |   | 飛 |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 三 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 | 歩 |  |
| 四 |   |   |   |   |   |   | 歩 |   |   |  |
| 五 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
| 六 |   |   |   |   | 歩 | 歩 |   |   |   |  |
| 七 | 歩 | 歩 | 歩 | 歩 |   | 歩 |   | 歩 | 歩 |  |
| 八 |   | 角 |   | 玉 |   |   |   |   | 遊 |  |
| 九 | 香 | 桂 | 銀 | 金 | 金 |   |   | 桂 | 香 |  |

持駒なし

参考2図：▲36歩、△34歩、▲68玉、△55角、▲59金右、△28角不成、▲49金、△18飛、▲59金右、△46角不成、▲28銀、△同角不成、▲56歩、△46角不成 まで14手

最終手は4手前と同一駒の同一地点への着手になっていて、見事両王手で詰んでいるのですが、手数オーバーの14手でした。

この手順の場合は最終手の4手前も2手前も王手ではなく、直前の先手着手は玉でもありません。直前の手は、最終手で両王手になるようにするための協力手の▲56歩でした。

両王手で詰まされるための最終手直前の玉の着

手とはどんなものでしょうか？両王手を掛ける2つの駒の利きが交わっている地点への玉移動になるはずですが、何処から移動するのかというと両王手のどちらかの駒の利き上を移動することになります。他の地点からの移動であれば、そこが玉の退路になるからです。

両王手の直前の手が玉の両王手で追い浮かぶのは通称0番の手順でしょう。22の角の利きを止めていた33の飛が38へ移動して、88の玉を飛と角で両王手を掛ける手順です。0番と同様に78の玉が88へ移動するのが最終手直前の手でしょうか。本問では8手目の局面で38に飛が居るので8段目の玉に王手が掛かっていたはずですが。9手目に合い駒をすると11手目は玉の手なのでこの合い駒が残ってしまい12手目の△38飛不成が両王手になりません。つまり、8手目の△38飛不成の王手に対して、玉は逃げる手を指さなければいけないわけです。8段目を移動しても駄目なので、飛の利きをかわすには段移動をする必要があります。かと言って安全な地点への移動では11手目に玉移動しても12手目の王手の際に安全地点へ戻ることができてはいけません。したがって、8手目の飛の王手に対して玉は角の利き筋へ逃げるしかありません。具体的には△77玉のはずです。しかし、この9手目の時点で77地点は角の利きが及んでいない状態でなければいけません。

ここまでの手順は初手から、▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲68玉、△37飛不成、▲何か、△38飛不成、▲77玉になります。▲77玉を指すには22の角の利きが遮断されている必要がありますが、その駒がその後も角の利きを封じているのも困ります。一気に問題を解決するのが、7手目の▲33歩になります。7手目から▲33歩、△38飛不成、▲77玉、△33飛不成で33の先手の歩を払い、最終手の△38飛不成の両王手を目指します。先手は11手目に協力手の▲88玉を指します。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「元作の「4手前のアリバイ」と、我々をこの世界に導いてくれた、高坂作「0番」へのオマージュ作です。直前玉の手は、一見不可能風ですので、解図意

欲は湧くかも。

1 2 手では、今の所この形しか知りません。」

■正解者数をみると、締め切り前ヒントで両王手を明かしても良かったのかも。何せ担当は0番だと睨んでいたのに▲33歩に気付かなかったのですから。

はなさかしろうさん「しびれました。かの0番へのオマージュですが、玉の軌道を変えるのが鍵で、2手プラスで「同一駒を同一地点に着手」が実現できてしまう、というのが盲点に。解けて嬉しいです。」

■爽快な解後感を味わえたようで羨ましいです。理由は前述の担当コメント。

RINTAROさん「33歩が絶妙。素晴らしい作品だと思います。」

■9手目の玉移動を可能にする、絶妙なタイミングでの絶妙の▲33歩が光ります。

ほっとさん「両王手にヤマを張ったら意外と易しかった。」

■両王手にヤマを張って解ける人と解けない担当との差は、基本的な将棋の棋力の差か？

占魚亭さん「詰み形が全く予想できません。降参。」

■困ったときには両王手を疑うと「覚えておきたい推理将棋の基礎知識」の第6回で記述されています。

NAOさん「皆大好きな両王手の筋。33歩～77玉～88玉とは、不思議な協力手がありましたね。」

■一刀両断の両王手は作者なら皆さん好きなテーマ。

飯山修さん「解けません。中段玉ではないのかな」

■詰み手順がわからないとに疑うのは両王手と中段玉。どちらも通常とは違った感覚になります。

山下誠さん「飛角による両王手パターンをいくつか考えましたが、いずれも手数オーバーで白旗です。」

■惜しい！狙いは当たっていたのですが…。と言う担当も同じでした。

諏訪冬葉さん「130-3は時間切れでギブアップです」

■申し訳ありません、ヒントがちょっと変でしたかね。10手目は王手ではないのは分かっているからヒントになっていない。

原岡望さん「降参。127-3を参考にしましたが駄目。そもそも自力で考えないのが悪いのか。手順前後のない手はそんなにたくさんはないはずなのに。14手の解はみつかったのに残念です。例えば 76歩 34歩 55角 同角 36歩 28角 同銀 18飛 68玉 55角 78玉 28角 88玉 55角」

■9手の両王手の変形ですね。0番は思い浮かばなかったでしょうか？

#### 【あとがき】

127-3のメイン条件を採用した作品でしたので、「条件の習作」と紹介しましたが、練習作でも模写でもなく完成された新作ですので、もちろん本作品は習作ではありません。『「4手前のアリバイ」のメイン条件を取り入れた作品です。』が適切でした。

\*\*\*\*\*

正解：5名

はなさかしろうさん ミニベロさん

RINTAROさん ほっとさん NAOさん

\*\*\*\*\*

総評

RINTAROさん「分かりやすい条件の秀作3題。楽しめました。」

■出題中の131-3の条件は分かり難いかも。

ほっとさん「今回は割と早めに解けていたのに、いつの間にか8月に入ってしまった。」

■そこそこ難しかったということでしょうか。

占魚亭さん「前は解けていたのに解答を送信し忘れ、今回は全く手が見えない。もうダメですね……。」

■涼しくなれば復活しますよ。きっと。

NAOさん「今回は結構苦戦しました。前回以上に解答の出足が鈍く皆さんも悩まれてるご様子。中級が意外と難しかったためかな。」

■仕事が忙しくて解答状況をチェックしてなくて、NAOさんからの解答（担当宛へもCc:で送付）で今回の解答ペースが遅いのを知った次第です。

飯山修さん「初級中級がサラッとすすんで上級問題で苦しむ今回のパターンは理想モデルでした」

■上級は解けるか解けないかのギリギリがいいですね。できれば苦しんだ後に解けるのが一番。ヒントの塩梅が難しいです。

神在月生さん「三問目をギリギリまで考えたために、各短評や総評を書く時間がなかった、という総評しか書けなかった。」

■チャレンジありがとうございます。

原岡望さん「今月は詰パラも惨憺たる有様で絶不調です」

■不調ではなく、今年の詰パラ推理は難問が続いているのが原因でしょう。7月号は時間がなくて馬鋸を解けませんでした。作り掛けの打ち歩詰め11手と形が違っている8月号の打ち歩詰めも、この結果稿を書いている時点では解けていません。

\*\*\*\*\*

推理将棋第130回出題全解答者： 12名

はなさかしろうさん ミニベロさん  
RINTAROさん ほっとさん 占魚亭さん  
けいたんさん NAOさん 飯山修さん  
山下誠さん 諏訪冬葉さん 神在月生さん  
原岡望さん

\*\*\*\*\*

(29) Michel Caillaud (Thema Danicum 91  
07/1998, New Years TT)



この局面に至る最短手順を求めよ(14+15)

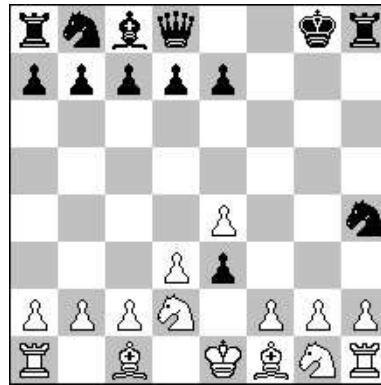
- a) 現在黒番の場合  
b) 現在白番の場合

なくなった駒は白が BP の 2 枚で、黒は P1 枚のみ。駒取りの痕跡は全く残っていませんが、c 筋の白 P はどこで取られたのでしょうか？また、これを取った黒駒は何でしょうか？すぐに思い浮かぶ 1.e4 a6 2.Bxa6 Sxa6... のような筋では、この後 c 筋の白 P を消すのに手数がかかり過ぎて全然ダメ。では、先にこの白 P を取って貰うのはどうでしょうか？そう考えると、a) より先に b) の順が浮かぶ筈です。つまり、b) 1.c4 Sa6 2.c5 Sxc5 3.e4 a6 4.Bxa6 Sxa6 5.Qc2 Sb8 ですね。

では、a) はどこで白 P を取らせるのでしょうか？実は意外なことに、白 Pc2 は不動のまま取られているのです！つまり、a) の作意は 1.e3 a5 2.Bc4 a4 3.Bb3 axb3 4.e4 bxc2 5.Qxc2 です。「P を早く取らせたい」と気がはやる程、この順は盲点になってしまわないのでしょうか。



(30) Michel Caillaud  
(The Problemist 2001-2002)



Proof Game in 7.75 moves (15+13)  
2sols.

黒の着手は盤面配置だけで 8 手ですから、通常なら 8.0 手となる筈ですが、手数表記は 7.75 手。これは一体どういうことなのでしょう？

7.75 手とは、黒が 8 手目の着手を半分だけ指しているという意味です。これから連想されるのは何でしょうか？勿論、それは castling と en passant ですね。後は、それらを含みつつ白 Q が 5 手以内に黒 B と 2 枚の黒 P を取る筋を探せばよい訳です。

1 解目は、1.e4 Sh6 2.Qg4 Sf5 3.Qxg7 Sh4 4.Qxh7 Bh6 5.Qxh6 f5 6.Qe3 f4 7.d3 xe3 8.Sd2 Ke8-g8(=1/2 0-0) となります。そして 2 解目は、1.d3 Sh6 2.Qd2 Sf5 3.Qh6 Sh4 4.Qxh7 f5 5.Qxg7 f4 6.Qxf8+ Kxf8 7.Sd2 Kg8 8.e4f4-e3(=1/2 fxe3 e.p.) ですね。

Joke Problem とは言え、castling と en passant をこのような形で結び付けて表現してみせる作者のセンスの良さには脱帽です。

(31) 橋本 哲 (Problemlblad 2007)



Proof Game in 13.0 moves (13+15)

なくなった駒は、白が QPP の 3 枚で、黒は P1 枚のみ。盤面配置を作るには双方とも 4 手しかかかりません。ここでまず、b 筋の黒 P が 2 枚駒取りをして d3 で取られたと仮定しましょう。すると、黒は手がかなり余りますが、逆に白は Pc2-c4 で 1 手、Qd1-f3-f6 で 2 手、そして g 筋の白 P が成って b 筋の黒 P に取られるのに 7 手かかりますから手数オーバー。よって、b 筋の黒 P は成っていることが分かります。

では Pb3xPc2xQd1=B と成って、その後この B を d1-c2-d3 と捨てたのでしょうか？しかしそうすると、白は R か S を f6 に捨てることになります。でもこれでは、白の手が足りません。従って、黒 B の Ceriani-Frolkin も不可能であることが分かりました。

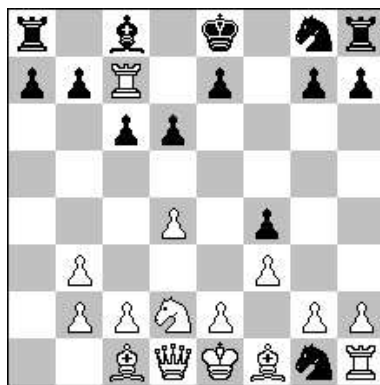
すると残るは Pronkin ですね。つまり、黒は Bc8 を d3 に捨ててから d1=B と成り、これを c8 に戻したのです！これで黒側の駒取りは尽きていますから、g 筋の白 P が成っていることも分かりました。白 P が成る為にはその前に f6 に捨駒をする必要があります、それが Q であることもほぼ明らか。つまり、黒 P が d1 で取った白 Q は成駒なのです！

作意は、1.g4 d6 2.g5 Bf5 3.g6 Bd3 4.exd3 Sf6 5.Qf3 Sh5 6.Qf6 gxf6 7.g7 b5 8.g8=Q b4 9.Qg4 b3 10.Qd1 xc2 11.Se2 xd1=B 12.Sg3 Bg4 13.f3 Bc8 となります。作者の主張は「Pronkin の為の Pronkin」、所謂 Hashimoto theme ですね。

ちなみに、1 号局の作者は G.Donati だったのですが、惜しくも余話。その後、橋本氏がこの主題で何作も発表した為に、現在ではこの名が定着しているようです。



(32) Michel Caillaud(Orbit 15, 2002)



Proof Game in 14.0 moves (15+14)

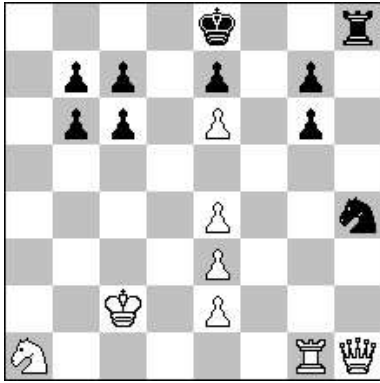
なくなった駒は白が S のみで、黒は QB の 2 枚。黒 Bf8 は不動のまま取られているので、白 Pb3 が取ったのは黒 Q ですね。手数計算をしてみると、白は盤面配置を作るのに 10 手、黒は 8 手かかります。黒 Q が d8-b6-b3 と動いているのを考慮すると、双方とも 4 手ずつの猶予があることになりませんが、これはいったい何を意味するのでしょうか？ここで白 Rc7 に注目してみると、黒 K が不動の筈がないことはすぐに分かります。すると、自然に d7-e6-f7-e8 という黒 K の Rundlauf も見えてきますね。これで黒の手は 14 手ちょうどになりました。

今度は黒 Sg1 に目を移してみましょう。これが g1 に入る前は f3 にいたはずですが、そうすると白 K もやはり動かざるを得ませんね。ということで、こちらもまた d2-e3-f2-e1 と Rundlauf していたのです！これで白も 14 手ちょうどになりました。後は実際に駒を動かしてみるだけです。作意は 1.d4 Sc6 2.Kd2 Se5 3.Ke3 Sf3 4.Sd2 Sxg1 5.f3 c6 6.Kf2 Qb6 7.Ke1 Qb3 8.axb3 f5 9.Ra5 f4 10.Rf5 d6 11.Rxf8+ Kd7 12.Rd8+ Ke6 13.Rd7 Kf7 14.Rc7 Ke8 となります。

K の doubled Rundlauf を無駄な装飾も一切つけずにさらりと表現しています。まさに名人芸という感じがしますね。

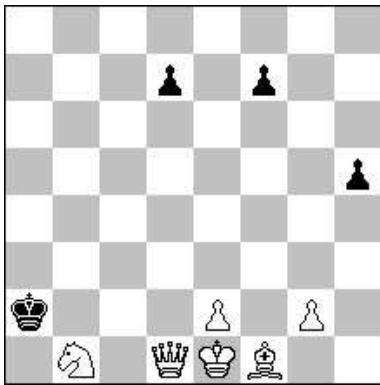
では、今月の出題です。

(33) Josef Haas  
(Die Schwalbe 20 04/1973)



白が1手戻し、それから#2にせよ  
(8+10)

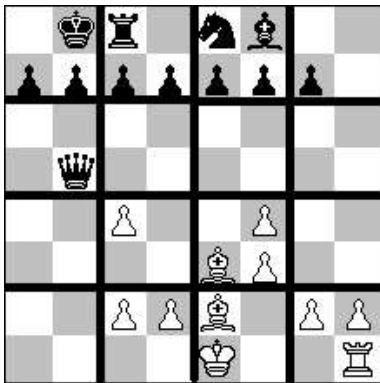
(34) Raymond Smullyan (The Chess  
Mysteries of Sherlock Holmes 1979)



castling と en passant があったことを示せ

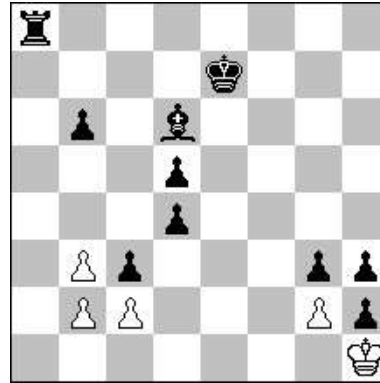
Monochrome chess (6+4)

(35) Julio Alberto Pancaldo  
(feenschach 01-03/1977)



H#2.5 Grid Chess(11+12)  
b) Orthodox

(36) Michel Caillaud (Diagrammes  
1979, dedicate to G.Yacoubian)



SH#15 (5+10)

ルール説明

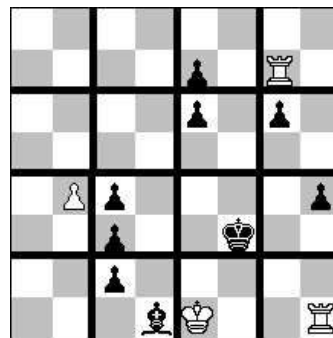
### Monochrome Chess

Monochrome Chess というのは、「すべての駒は初形で位置する柵と同色の柵にしか移動できない」という制限を加えたチェスのこと。このルールの下では、例えば白 Qa1/黒 Ka2 でもチェックはかかっていないこととなります。また、S は全く動けず、P はダブルステップの後は駒取りをして進むほかありません。castling は 0-0 のみ可。en passant capture は可能です。

### Grid Chess

Grid Chess というのは「着手は双方とも、必ず盤上に引かれた太線 (= grid) を跨がなくてはならない」という制限を加えたチェスのこと。このルールの下でも、白 Ra1/黒 Ka2 ではチェックがかかっていないこととなります。例題を一つお見せしましょう。

Kjell Widlert(Problemkiste 08/1992)



H#2 Grid Chess(4+9)

作意は 1.Pxb3 e.p.! Rxc6 2.Be2 0-0# と



いうもの。直前の白の手は  $Pb2-b4$  しかありませんから、黒は *en passant capture* が可能です(ちなみに、この手は *tempo move* になっています)。2手目に黒は  $e2$  を埋める為  $B$  を引きますが、この  $B$  は  $f1$  への利きを持ちませんから、白は *castling* 可能です。尚、白の  $Pb2-b4$  の直前に黒の駒取りがあったとすれば、この *castling* が正当化できます。

ちなみに、白の最終手を  $2.Rf1+?$  とすると  $3.Kf2!$  で逃れます。このような通常はあり得ない手が受けとして成立するのも、*Grid Chess* の面白さです。

### Series Help

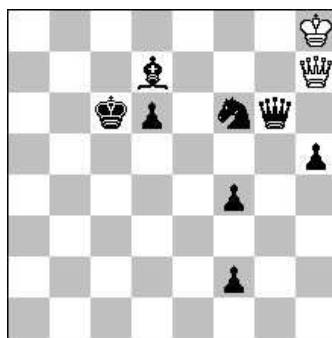
*Series* 系では基本的に一方だけが連続して着手し、最後に 1.0 手で詰める(あるいは詰められる)ことができる局面を構成することが目標となります。最終手を除き、連続着手の途中でチェックをかけてはいけません。*Series Help*(SH#n)の場合、具体的には「黒が(n-1)手連続して着手し、それから  $H\#1$  として詰める」こととなります。とりあえずは「黒が n 手連続して着手し、最後に白が 1 手指して詰める」と考えて頂いても構いません。

これだけだとレトロと全く接点がないように見えますが、実は *Series* 系にはもう一つ重要なルールがあります。それは「連続着手の途中で、不可能局面を生じてはならない」というものです。通常、不可能局面というと「実戦において生じえない局面」を指しますが、*Series* 系において「不可能局面」という言葉は少し違った意味を持ちます。黒が連続して着手するという事は、黒番が続いていることとなりますが、この「黒番であること」を常に正当化するために、任意の局面において直前の(勿論合法的な)白の手を用意しなければならないのです! 例題を一つ紹介しましょう。



Cedric C.L.Sells

(The Problemist 1976, 2<sup>nd</sup> Com.)



SH#5(2+8)

一見、黒  $K$  を  $1-4.Kc6-c7-d8-e8-f8$  と動かしてから  $5.Qe8 Qg7\#$  とすれば良さそうですが、実はこれは誤解です。どこが不味いか分かりますか? 実は、上の順では  $4.Kf8$  の瞬間、直前の白の手が存在しません。従って「任意の局面において直前の(勿論合法的な)白の手を用意しなければならない」というルールに抵触することになるのです!

作意順は  $1-3.Kc6-d5-e4-f3$   $4.Qg2$   $5.Bg4 Qd3\#$  というもの。これなら常に直前の着手として白  $Q$  の手が用意されています。このように、実際には指されることのない白の手を常に考慮に入れることにより、*Series* 系の作品はレトロの要素を含むことになる訳です。

*Series* 系における局面の合法性とは、このような意味です。お分かり頂けたでしょうか?

< 伝承 >

2020年9月21日、いよいよ「伝承」サイトを公開します。妖精都市で告知します。

特に若い世代とのフェアリー資産の共有を目指したものです。当初構想とは若干異なる構成になりましたが、目的は達成できるものと思います。感想や要望、その他気づいたこと等お寄せいただければと思います。

以下「伝承」のトップページから<はじめに>部分を抜粋して紹介します。

~~~~~

<はじめに>

2019年7月14日、大阪産業創造館で開催された第35回詰将棋全国大会でのことである。私は会場隅の書籍販売ブースで自身の最新フェアリー詰将棋作品集「TAROTRAILS」を配布していた。そこにやってきた青年の名札には「上谷直希」とあった。二刀流の新鋭である。彼は「TAROTRAILS」を受け取ると遠慮がちに『相談がある』と切り出した。フェアリー詰将棋の入門書を企画していて、その実現に協力してほしいという。

企画書には入門ながらフェアリー詰将棋の歴史にも触れ、名作集の側面も持たせる趣旨の記述があった。翻って目次案や一部ドラフトを見る限り、趣旨実現には少し距離がありそうだと感じた。協力は約束したもののその場では大したアドバイスもできず、全国大会から帰宅したあと、改めて企画書とドラフトを読んでメールしたのだが、アドバイスというより自分がやりたいことを書いていただけになってしまったようだ。

実は来年の詰将棋全国大会のときには私は定年を迎えている。そういう年齢になってきたときに会社の中で何を期待されるかという、「専門性の発揮」と「後進の育成」である。その実践の仕方には色々あるが、例えば身につけている知識や経験をドキュメント化して関係者、特に若い人と共有するというのが一番手っ取り早い方法である。「フェアリー詰将棋入門」の話を聞いてあれこれ考えているうちに、フェアリー界限でも同じ状況なのだ気づいた。そして、過去のフェアリー詰将棋やその研究などのフェアリー資産をフェアリー愛好家の共有

財産として次の世代に引き継いで行くことが先に道を歩んできた我々ベテランの責務なのだと思う。

そういう観点で構想したのがこの「A Young Person's Guide to Fairy Tsume Shogi」である。「入門」でも「名作集」でもない。「伝承」である。若手に限らず、フェアリー愛好家で共有して欲しい資産を整理した。一部資産については新たにWebで参照できるようにした。

本構想の実現に向け様々なかたちで協力をいただいた下記諸氏にお礼申しあげる。

(諸氏名割愛)

今後の伝承は上谷直希氏らの若い世代に託したい。”Carry on, my wayward son”.

~~~~~  
さて、本題です。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【ステイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【点鏡】

55に関して点对称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

[補足]

行き所のない駒の禁則は適用されない。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

[補足]

駒を打ったときは動かない。

【中立駒】(n駒)

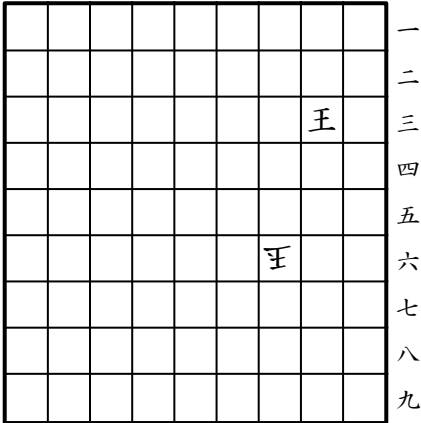
どちらの手番でも動かせる駒。「WFP 作品展登場ルールのまとめ」(↓)も参照してください。  
<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule119.pdf>

<問題>

【7-1】

点鏡協力自玉スタイルメイト 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 銀

25 銀 85 飛 27 銀 25 玉 14 王 96 桂  
16 銀 94 飛 まで 8 手

占魚亭

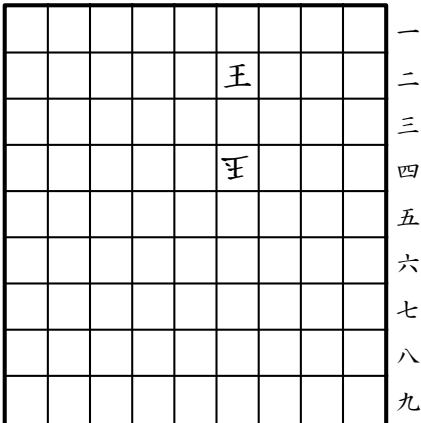
双方の玉が動くと難度が上がりますね。

※スタイルメイト達成時にはすべての駒の利き  
が入れ替わっています。

【7-2】

点鏡協力自玉スタイルメイト 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 桂

36 桂 74 飛 56 桂 54 玉 46 桂 64 王  
53 王 57 飛 63 王 47 桂 まで 10 手

占魚亭

三対子。

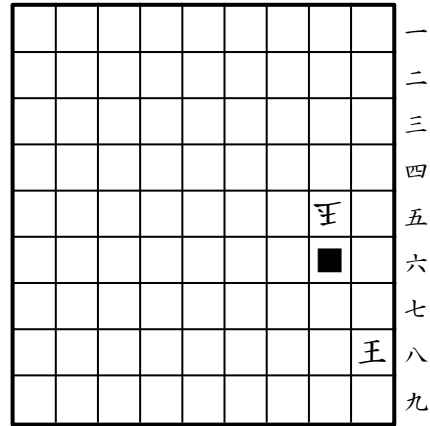
※スタイルメイト達成時にはL字型のかたまり

がふたつ。ちょっと錯覚を起こしそうですが、  
王も玉も桂の利きになっています。

【7-3】

協力自玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n桂

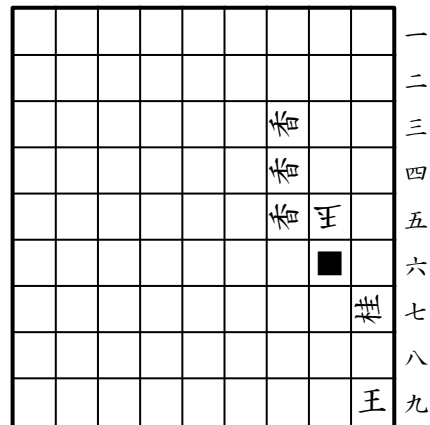
※後手持駒はすべて中立駒

※ただし、歩の中立駒はありません

17n 桂 34n 香 19 王 [I27] 35n 香  
33n 香生 [I26] 34n 香 まで 6 手

達成図

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

占魚亭

小粋な 5 手目。

※n 香が 3 枚並ぶ印象的なスタイルメイト達成  
図です。無条件でこうできればよかったです  
が、後手持駒に n 歩があると一部 n 香の代用に  
できてしまいます・・・。



## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2020年10月10日(木)

推理将棋第132回出題  
推理将棋 6題

### 2020年10月15日(木)

第124回WFP作品展  
フェアリー作品 12題

Fairy of the Forest #64  
協力詰 15題

### 2020年11月15日(日)

第124回WFP作品展  
フェアリー作品 12題

## 作品募集一覧

### 第53回神無一族の氾濫

作品要件

「7にちなんだ作品」

募集締切

2020年10月18日(日)

募集作品数

4+1(協力詰枠)

送り先

神無七郎(k7ro.ts@gmail.com)

備考

1人何作でも投稿可。採否は10月25日までに通知します。

※詳細はP11をご覧ください

### WFP150号記念復活

#### 第12回アンチキルケばか詰作品展

開催号:WFP150号(2020年12月号)

作品要件:アンチキルケばか詰(通常駒数を基本としますが、後手持駒制限は可とします。他のルールとの組み合わせは不可。手数は無制限)

お一人何作でも可。たくさんのお題で作品展を盛り上げて欲しいと思います。

2020年9月20日現在の投稿数・・・3  
(神無太郎1、神無七郎1、たくぼん1)

投稿先

たくぼん:takuji@dokidoki.ne.jp

投稿締切:

2020年12月15日(火)

【(参考)アンチキルケ関連のHP】

Onsite Faily Mate アンチキルケ入門者のためのアンチキルケ作例集

<http://k7ro.sakura.ne.jp/book/AntiCirceStudies/index.htm>

Takubonのページ アンチキルケ入門

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/AntiCirce.html>

Takubonのページ アンチキルケばか詰 図式集

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/AntiCircezusiki.html>

【あとがき】

神無太郎氏による「伝承」サイトがいよいよ明日公開されます。

詳細は妖精都市をご覧ください。

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

たくぼん

2020年 第147号

### Web Fairy Paradise

非売品

令和二年九月号

令和二年九月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp